

2026年度 診療のご案内



地方独立行政法人大阪府立病院機構

大阪はびきの医療センター

Osaka Habikino Medical Center



地域に信頼され、 地域になくてはならない 病院へ



大阪はびきの医療センター院長
山口 誓司

平素は当センターの運営にご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

地域の皆様、そして医療機関の先生方からの温かいご支援のおかげで、当センターは着実に歩みを進めることができております。特に、地域の先生方からのご紹介による患者さんが増えていることを心より感謝申し上げます。

さて、これまで当センターが急性期の拠点的功能を果たすことが出来るよう、診療科の拡充や最新医療機器の導入、がん診療における診断から治療までの体制整備、救急医療の強化などを積極的に進めてまいりました。今年度より新たに5大がん（肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん）において大阪府のがん診療拠点病院として指定される運びとなりましたこと、本誌を借りてご報告申し上げますとともにご支援をいただきました先生方に感謝申し上げます。これまで当センターは肺がん領域での大阪府のがん診療拠点病院の指定を受けておりましたが、5大がんでもがん診療拠点病院の指定を受けたことで地域でのがん診療

に大きく貢献できることとなります。今後もなお一層、患者さんの利便性や療養環境の向上にも力を注いで行く予定です。

今年度は、これまで以上に地域の先生方との連携を深め、それぞれの専門性を活かし、患者さんにとって最善の医療を提供できる体制を築いてまいります。呼吸器疾患、アレルギー疾患、感染症といった専門医療においては、常に新しい知識と技術を取り入れ、地域医療の質の向上に貢献してまいります。また、急性期医療やがん診療に加え、南河内地域の小児・周産期医療、生活習慣病（糖尿病・腎臓病など）に対する専門医療にも積極的に関わり、地域全体の医療水準向上に尽力してまいります。

今後とも、地域医療支援病院として、地域の先生方との緊密な連携を通じて、南河内地域の医療発展に貢献してまいりますと存じます。引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

理念

私たちは、最新の医療水準で、最適な医療サービスを、思いやりの心をこめて提供します。

基本方針

1. 府民に信頼され、安全で質の高い医療を提供します。
2. 多職種が連携して、患者さんの中心のチーム医療を実践します。
3. 地域の医療・保健・行政機関等と連携し地域医療の発展に努めます。
4. 高度な倫理観を持った地域医療に貢献できる医療人を育成します。
5. 政策医療を推進するとともに健全な病院経営に努めます。



沿革

1952年12月	大阪府立結核療養所羽曳野病院として開院 病床数320床
1957年10月	病床数1,000床に変更
1976年4月	大阪府立羽曳野病院に改称
2003年10月	大阪府立呼吸器・アレルギー医療センターに改称
2006年4月	地方独立行政法人大阪府立病院機構設立に伴い、事業移行
2010年4月	大阪府がん診療拠点病院(肺がん)に指定
2014年4月	第二種感染症病床設置(6床)
2015年3月	日本医療機能評価機構評価認定(3rdG: Ver1.0~)
2017年4月	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪はびきの医療センターに改称
2018年4月	一般病床360床、結核病床60床、第二種感染症病床6床に変更
2018年6月	大阪府アレルギー疾患医療拠点病院に指定
2020年6月	日本医療機能評価機構評価認定(3rdG: Ver2.0~)
2021年3月	地域医療支援病院の承認
2023年5月	新病院開院 病床数405床(一般病床354床、結核病床45床、第二種感染症病床6床)
2024年3月	紹介受診重点医療機関に指定
2025年4月	大阪府がん診療推進病院に指定
2026年4月	大阪府がん診療拠点病院に指定
2026年4月	日本医療機能評価機構評価認定(3rdG: Ver3.0~)

目次

01 院長挨拶・沿革	08 オンライン予約システム
03 診療機能の特色	09 診療科一覧
05 患者総合支援センターのご案内	11 診療科紹介
07 外来診療のご案内	

診療機能の特色

地域医療

地域医療支援病院

紹介患者に対する医療提供、医療機器等の共同利用、救急、地域の医療従事者への研修などにより、地域医療を担うかかりつけ医等を支援し、地域医療の確保を図る。

南河内医療圏の分娩を支える医療機関

年間分娩件数は約1,000件と南河内医療圏において多くの分娩を担う。

大阪府小児地域医療センター

小児救急搬送受入について24時間365日体制を整備。

紹介受診重点医療機関

かかりつけの医療機関の紹介状を持って受診する医療機関として、より専門的な検査や治療を重点的に行う。

糖尿病・腎臓病・循環器疾患など生活習慣病への対応

地域の医療機関と連携し、超高齢化社会における地域住民の健康寿命の延伸を図る。

救急・災害医療

大阪府二次救急告示医療機関

呼吸器疾患をはじめ急性腹症、循環器疾患、一般外傷など幅広い救急診療を提供。

大阪府特定診療災害医療センター

災害時に呼吸器疾患、アレルギー疾患、小児・周産期医療等の広域での専門医療を担う。



低侵襲治療（ロボット支援手術、ハイブリッド手術等）

最新鋭の手術システム

治療後の早期社会復帰を図るため、新病院では「内視鏡手術支援ロボット」「ロボティックアーム手術支援装置（股関節・膝関節用）」「ハイブリッド手術室用血管造影

X線装置」など最新鋭の医療機器を積極的に導入、更なる低侵襲治療に取り組む。



がん診療

大阪府がん診療拠点病院

今年度4月より「大阪府がん診療拠点病院」に指定

●各分野（肺がん、消化管がん、肝胆膵がん、乳がん、婦人科がん、泌尿器がん等）の専門医や看護師、薬剤師等が一丸となり、高度な集学的治療（手術・薬物・放射線）から、「緩和ケア」、「栄養サポートケア」の充実、また、「がん相談支援センター」の運営まで、切れ目のない体制を整備。

●先生方が大切にされている患者さんを迅速に受け入れる体制を徹底するとともに、がん地域連携パスを活用し、急性期治療後は先生方へスムーズに逆紹介を行う「切れ目のない地域完結型医療」を推進。



呼吸器・アレルギー・感染症

大阪府域の呼吸器疾患中核病院

急性及び慢性の呼吸不全に対し、専門の医師・看護師・理学療法士が連携して、急性期の集中治療から慢性期の治療・ケア、呼吸リハ、在宅呼吸ケアまで、包括的な診療を実施。

大阪府アレルギー疾患医療拠点病院

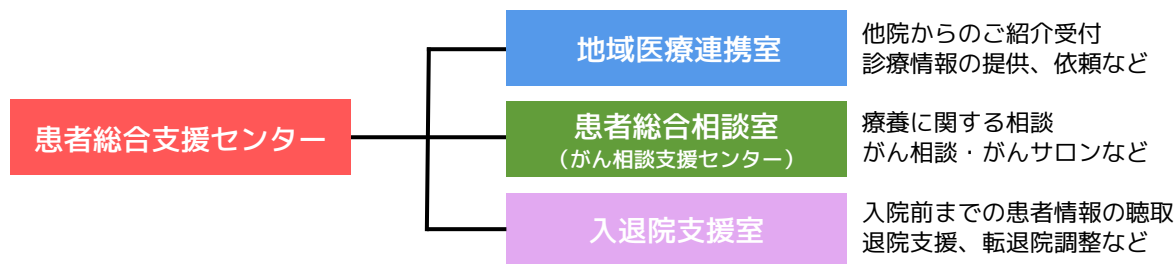
難治性アレルギー疾患の診療をさらに充実させるとともに、アレルギー疾患に関する診療連携体制の構築や人材育成等、地域の医療機関や学校関係者、患者会等とも連携し、アレルギー疾患治療の提供体制を確立するとともに、情報の発信を実施。

第二種感染症指定医療機関・結核指定医療機関

- 新型インフルエンザ、COVID-19、SARS 等の新興感染症をはじめ、重症肺炎感染症、結核等の診療および、各種併発症をもつ結核患者の治療など多種の感染症疾患に対応。小児および妊婦結核に対応可能な府内唯一の医療機関。
- 院内感染対策を実施、他施設への指導も行っており、府の結核対策や政策医療に対応した診療・研究・専門医育成活動を実施。



患者総合支援センターのご案内



- 紹介状をお持ちの患者さんは事前予約にかかわらず、患者総合支援センター（地域医療連携室）ですべて対応いたします。
ご紹介いただいた患者さんが、スムーズに診療を受けていただけるようご案内させていただきます。
- 患者さんの療養相談では、患者総合支援センターの中にプライバシーに配慮した面談室も設けています。また、がんサロンの設置など、がん患者さんへの支援も積極的に行っております。（患者総合相談室）
- 患者総合支援センター（入退院支援室）では、患者さんの状態を入院前から把握し、医療ソーシャルワーカー（MSW）や看護師などの専門職が退院後を見据えた在宅療養支援を行っております。



患者総合支援センター受付



患者面談ブース

紹介患者の受診の流れ

患者さんの待ち時間短縮のため、
できる限り事前にご予約をお取りください。

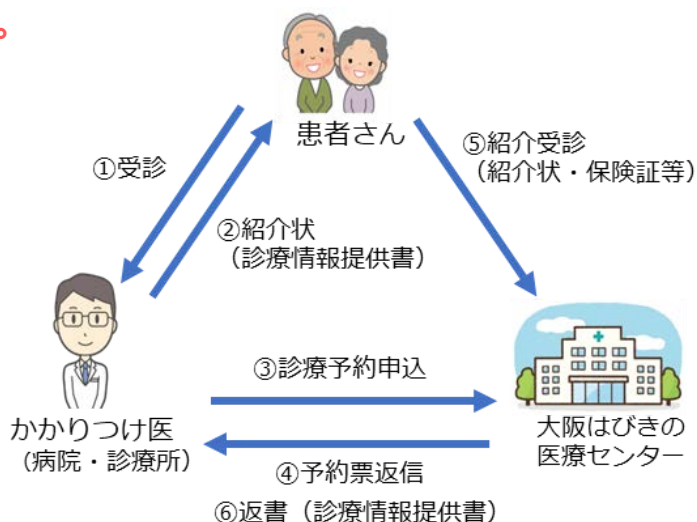
予約方法

FAXの場合

- ① 診察予約申込書と診療情報提供書（紹介状）をお送りください。
- ② 予約日時が決まりましたら「予約通知書」をFAXで送信いたします。
- ③ 患者さんに予約日時等をご説明いただき、予約通知書・紹介状等をお渡しください。

オンライン予約の場合

オンライン予約システム「C@RNA Connect」をご利用ください。



患者総合支援センター
(地域医療連携室)

☎ 072-957-8030 (直通)

☎ 072-957-8051

☎ 072-957-2121 (代表)

✉ habikino-chiiki@ra.opho.jp

登録医制度のご案内

地域の医療機関の先生方と当センターの機能を相互に有効活用し、医療連携を深め広げることで、地域全体として患者さんにより質の高い医療を提供していくことを目的として登録医制度を実施しております。

登録医のメリット

1. 開放病床のご利用と共同診療ができます。
2. 院内研修会・講演会へ参加することができます。
過去の勉強会の動画をご覧いただけます。
3. 当センターの図書室が利用でき、資料の閲覧や視聴ができます。
4. 当センターの各種情報を随時提供いたします。
5. ホームページより登録医紹介ページへ移動できます。

お問い合わせ・お申し込みは、地域医療連携室で。

検査のご案内

地域の先生方からのご依頼で、CT・MRI検査（単純・造影）をご利用いただけます。今後、上部内視鏡も始める予定です。
ご利用につきましては、地域医療連携室までお問合せ下さい。



開放病床のご利用

- 当センターでは、ご紹介いただきました患者さんに入院が必要な場合、開放病床をご利用いただけます。
- 紹介医と当センターが共同して、より適切な医療を提供し、退院後に引き続き紹介診療所において治療をお願いするものです。事前に「登録医」としてご登録をお願いしております。ご利用及び登録医申請の方法につきましては、地域医療連携室までお問い合わせください。

- 【開放病床】 5 床
【対象診療科】 病床をもつ全診療科
【入院期間】 3 週間（21日）以内を原則としています。
【診療報酬】 開放型病院共同指導料
（あらかじめ患者さんへのご説明をお願いします）

登録医 （開放型病院共同指導料Ⅰ）
診察時（1日1回限り） 350点

病院 （開放型病院共同指導料Ⅱ）
診察時（1日1回限り） 220点

オンライン予約システム 「C@RNA Connect」

当センターでは、オンライン予約システムを導入しております。
外来診療については全診療科、検査についてはCT単純撮影で予約対応しております。詳細は8ページをご覧ください。

入退院支援

- 患者総合支援センターでは、入退院支援室の看護師や医療ソーシャルワーカー（MSW）が入院前支援・退院支援・医療福祉相談を行っております。患者さん・ご家族が安心して入院治療が受けられ、希望される場所へ退院していただけるよう支援を行っています。
- 患者さんの入院が決まりましたら、入退院支援室の看護師らが面談を行い、自宅での生活状況や今後の生活に対する不安などをお聞きし、病棟看護師や退院調整看護師・MSWと情報共有し、ケアの継続を図ります。

また患者さんの状態に応じて院内多職種で協同して退院支援を行っております。

- 在宅に帰られる患者さんにつきましては、必要に応じて在宅医・ケアマネージャー・訪問看護ステーションなどとも連携を図っています。よりよい状態で退院し在宅療養していただけるよう、退院前合同カンファレンスも積極的に行っています。
- 常に患者さんを中心に据え、入院前から退院・在宅まで切れ目のない連携と支援のさらなる充実を目指しています。

外来診療のご案内

初診受付・予約外の再診

平日午前8時45分～午前11時（月曜日～金曜日）
紹介状をお持ちの方は、患者総合支援センターで対応いたします。

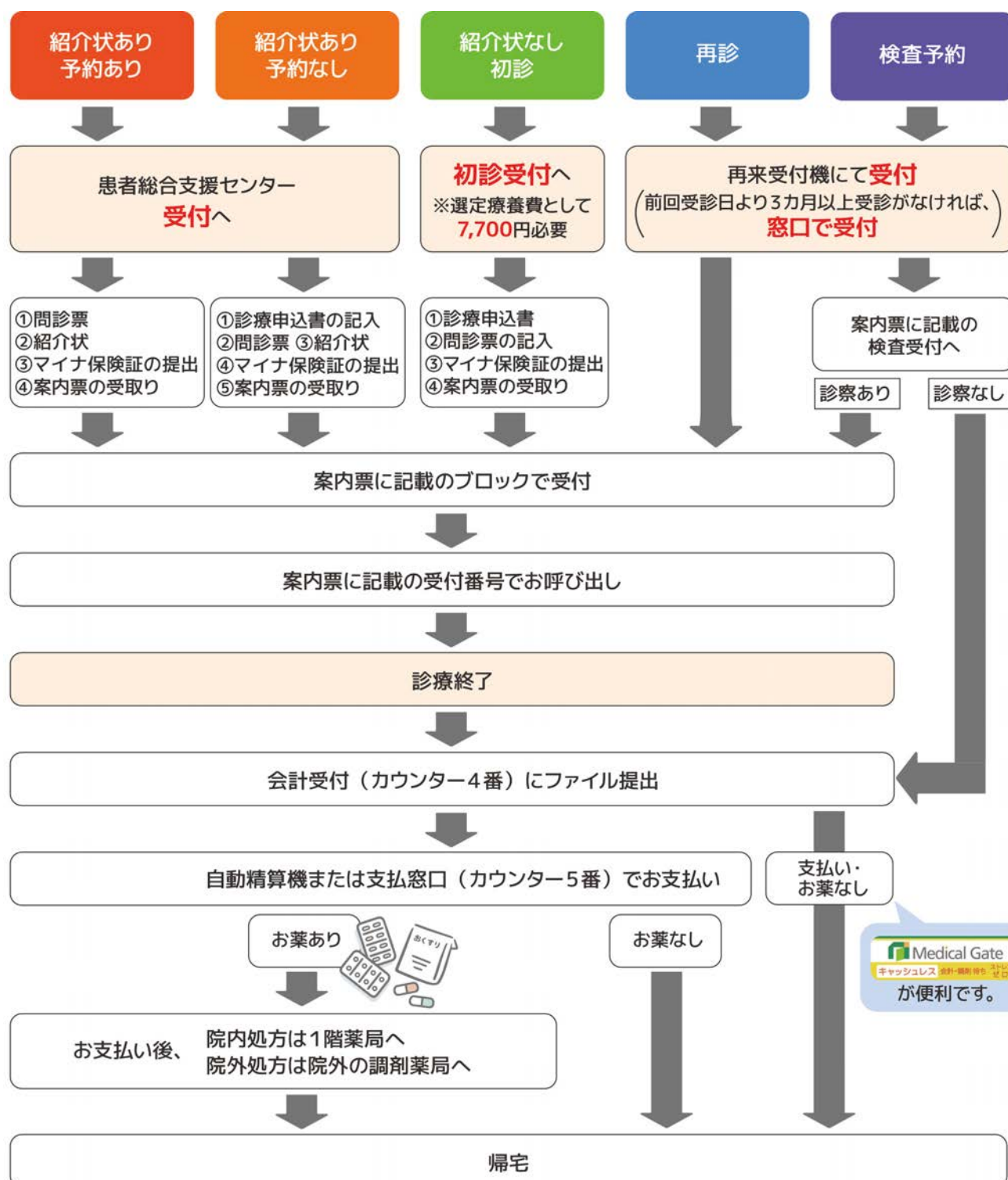
再来受付

平日午前8時15分～予約時間まで

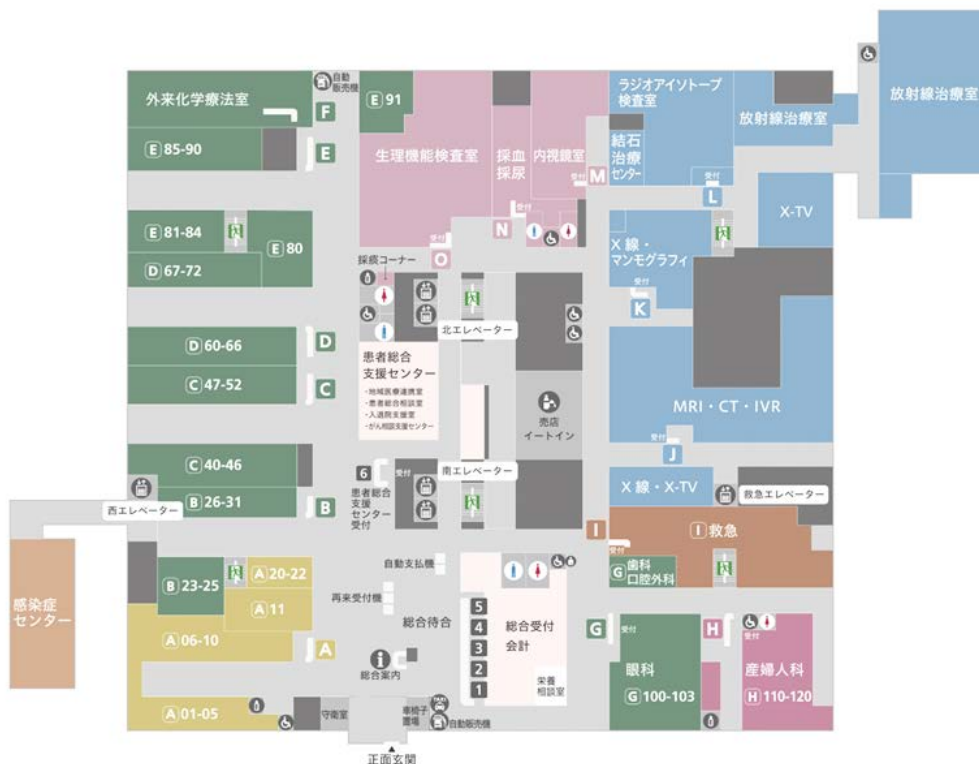
休診日

土曜日・日曜日・祝日・年末年始（12月29日～1月3日）

外来受付・受診の流れ



2F・外来エリアのご案内



オンライン予約システム「C@RNA Connect」

当センターでは、オンライン予約システムを導入しております。
外来診療については全診療科、検査についてはCT単純撮影で予約対応しております。

- 予約申し込みインターネットを利用します。
- 24時間365日、いつでも簡単に予約ができます。
- 診療所様は無料でご利用いただけます。
- 予約カレンダーで「空き状況」が一目でわかります。
- 患者さんをお待たせすることなく、予約票のお渡しまでができます。



当センター
HP

地方独立行政法人 大阪府立病院機構大阪はびきの医療センター

依頼先施設選択: 地方独立行政法人 大阪府立病院機構大阪はびきの医療センター 検索

FUJIFILM C@RNA Connect

予約カレンダー

新着通知 (0) 検索

病棟からお知らせ

川島 佳代子 (最短:2026/05/27へ)

梅田 直輝 (最短:2026/05/26へ)

小川 和也 (最短:2026/05/29へ)

名古 周平 (最短:2026/05/28へ)

秋田 佳名子 (最短:2026/05/25へ)

武 哲平 (最短:2026/05/27へ)

川島 佳代子の予約カレンダー

2026/06/01 - 2026/06/07

一覧表示 CSVダウンロード ごみ箱 枠の色の説明

06/01 (月)	06/02 (火)	06/03 (水)	06/04 (木)	06/05 (金)	06/06 (土)	06/07 (日)
09:00 予約 院内	予約 院内	予約 院内	予約 院内	予約 院内	予約 院内	予約 院内
予約 院内	予約 院内	予約 院内	予約 院内	予約 院内	予約 院内	予約 院内
09:30 予約 院内	予約 院内	予約 院内	予約 院内	予約 院内	予約 院内	予約 院内

診療科一覧

専門医療部門

診療科	診療内容
呼吸器内科	慢性閉塞性肺疾患やびまん性肺疾患、急性～慢性呼吸不全、睡眠時無呼吸症候群など幅広い呼吸器疾患の診療を行っています。
肺腫瘍内科	肺がんの早期診断から内科的治療、緩和医療に至るまで一貫した診療を行っています。
感染症内科	結核や非結核性抗酸菌症などの感染症を専門としています。
アレルギー・リウマチ内科	気管支喘息などのアレルギー疾患、リウマチ・膠原病などの自己免疫疾患の診療を行っています。
循環器内科	一般的な心血管疾患診療から、専門性の高い侵襲的治療まで幅広く対応。心臓核医学検査を応用し、認知症の鑑別診断も行っています。
消化器内科	消化器系の悪性疾患をはじめ、消化器疾患全般にわたる診療を行っています。
糖尿病・内分泌内科	糖尿病、脂質異常症、肥満症などの代謝疾患とともに甲状腺、下垂体、副腎などの内分泌疾患の診療治療を行っています。
腎臓内科	早期の腎炎に対する治療から、慢性腎臓病に対する腎代替療法まで、幅広い腎疾患を治療します。
呼吸器外科	肺がん、中皮腫から気胸まで胸部疾患手術を実施しています。
消化器外科	悪性疾患（上部消化管・下部消化管＋骨盤外科・肝胆膵）、良性疾患（胆嚢炎・ヘルニア等）、腹部救急（緊急手術）を行っています。
乳腺外科	乳がんの標準治療（外科治療、薬物療法、放射線治療）、乳がん再発治療を行っています。
産婦人科	産科は無痛分娩を中心に、良性腫瘍はロボットを中心とした鏡視下手術を、悪性腫瘍は関連外科と連携し集学的治療を行っています。
小児科	小児のアレルギー疾患、呼吸器疾患などを専門とし、一般小児疾患にも広く対応しています。
新生児科	低出生体重児、呼吸障害、重症黄疸などの院内出生児に対応しています。院外出生児を含めNICU退院後乳児の発達発育の外来フォロー・抗RSウイルス抗体薬の投与を実施しています。
皮膚科	アレルギー性皮膚疾患、アレルギー以外の皮膚疾患とともに、重症・難治性皮膚疾患の専門医療を行っています。
耳鼻咽喉・頭頸部外科	アレルギー、鼻副鼻腔疾患や甲状腺良性腫瘍および耳鼻咽喉・頭頸部外科領域全般の診療を行っています。
泌尿器科	泌尿器科領域の悪性疾患や排尿障害、尿路結石など、あらゆる疾患に対応しています。
整形外科	下肢関節障害や四肢外傷に対する手術・保存治療、骨粗鬆症に対する治療を中心に診療を行っています。
歯科口腔外科	口腔外科疾患を中心に、全身麻酔・静脈内鎮静による手術や外来手術を行っています。周術期等口腔機能管理や口腔ケアを実施しています。
心臓血管外科	心臓、大血管、末梢血管に対する外科治療を行っています。
眼科	現在非常勤医のみで、白内障、緑内障等の眼科一般診療を実施しています。

診療科	診療内容
麻酔科	各種呼吸器疾患合併患者をはじめ、重症の低肺機能患者や様々な併存疾患をもつ患者の周術期管理にも対応します。
集中治療科	急性の呼吸不全や循環不全に対する高度な呼吸管理と専門医療を行っています。
救急診療科	呼吸器疾患をはじめ急性腹症、循環器疾患、一般外傷など幅広い救急初期診療を提供しています。
画像診断科・放射線治療科	CT、MRIや核医学などの画像診断、IVR（画像ガイド下の治療）および放射線治療を行っています。
臨床検査科	各種検査を行い、迅速に正確な検査結果を報告し、的確な診断・治療を支えています。
リハビリテーション科	急性期から亜急性期のリハビリテーションを実施しています。
病理診断科	各診療科と緊密に連携し病理・細胞診断を迅速かつ正確に行っています。

病院機能指定・学会施設認定等

病院機能指定

地域医療支援病院／大阪府がん診療拠点病院／難治性多剤耐性結核広域圏拠点病院／大阪府アレルギー疾患医療拠点病院／第二種感染症指定医療機関／エイズ治療拠点病院（結核・重症呼吸器感染症を併発したエイズ患者）／労災保険指定医療機関／日本医療機能評価機構認定病院／大阪府小児地域医療センター／特定診療災害医療センター／二次救急告示医療機関／協力型臨床研修病院／重症薬疹診療拠点病院

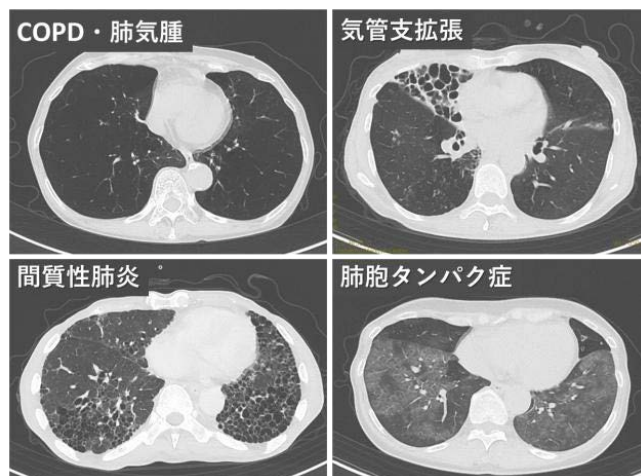
学会施設認定等

WAO center of excellence／日本内科学会認定医制度教育関連病院／日本外科学会外科専門医制度修練施設／日本呼吸器学会内科系外科系指導施設／日本呼吸器学会（呼吸器内科領域専門研修制度）認定施設／日本臨床腫瘍学会認定施設（特別連携施設）／日本がん治療認定医機構認定研修施設／日本呼吸器外科学会指導医制度認定施設／日本胸部外科学会認定医認定制度指定施設／日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設／日本リウマチ学会教育施設／日本皮膚科学会認定専門医研修施設／日本小児科学会専門医研修施設／日本眼科学会専門医制度研修施設／日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医研修施設／日本鼻科学会鼻科手術認可研修施設／日本気管食道科学会認定専門医研修施設（咽喉系）／日本感染症学会認定研修施設／日本循環器学会認定専門医研修関連施設／日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設／日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設／日本肝臓学会認定施設（特別連携施設）／日本乳癌学会認定施設／日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会乳房再建エキスパンダー実施施設／日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会乳房再建インプラント実施施設／日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関／日本医学放射線学会画像診断管理認証施設／日本麻酔科学会麻酔科認定病院／日本病理学会研修登録施設／日本臨床細胞学会認定施設／日本臨床細胞学会教育研修施設／日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設／日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師研修施設／日本緩和医療薬学会緩和医療専門薬剤師研修施設／薬学生実務実習受入施設／認定臨床微生物検査技師研修施設／日本超音波医学会認定超音波専門医研修連携施設／日本呼吸療法医学会認定呼吸療法専門医研修施設／日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度関連認定施設／日本栄養治療学会稼働施設／日本鼻科学会鼻科手術認可研修施設／日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設／日本医療薬学会地域薬学ケア専門薬剤師研修施設／日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設／日本産科婦人科内視鏡学会ロボット手術認定研修施設／日本肝臓学会特別連携施設／呼吸器外科専門医合同委員会専門研修基幹施設／マンモグラフィ検診施設・画像認定証／日本胃癌学会認定施設B／日本胆道学会認定指導医制度指導施設／NIPTを実施する医療機関（連携施設）／日本透析医学会認定教育関連施設／日本腎臓学会認定教育施設／ISO 15189／日本専門医機構麻酔科専門医研修連携施設／日本糖尿病学会認定教育施設II



診療の特色

- 慢性閉塞性肺疾患（COPD：肺気腫・慢性気管支炎など）、特発性間質性肺炎、膠原病肺疾患、過敏性肺炎をはじめとするびまん性肺疾患、呼吸器感染症（細菌性肺炎、肺真菌症、抗酸菌感染症など）、睡眠時無呼吸症候群など、急性から慢性の様々な呼吸器疾患に対して、最新の知見とガイドラインに基づく診断と治療を行っています。さらにそれらの疾患に対し、必要時には集中治療科（ICU・HCU）で集中治療を行ったり、呼吸リハビリテーションを実施するなど、包括的、全人的呼吸ケアの実践をしています。
- 在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気療法、CPAP療法を行っている多くの患者さんの診断・治療を行っています。
- 外来においては呼吸器看護専門外来を併設し、専門性の高い看護師によるセルフマネジメント支援や地域の医療従事者との連携による患者さんのQOL向上をめざしています。
- COPD教育入院（2泊3日）、酸素流量調整入院（1週間）、CPAP導入入院（2泊3日）を行っています。地域医療連携室で予約を賜っております。
- 身体障害者福祉法に基づく呼吸機能障害や、難病法に基づく特定疾患（呼吸器疾患）の申請を行っています。



主要検査

高分解能CT検査 / 精密呼吸機能検査 / 呼吸器内視鏡検査（気管支鏡検査）
睡眠時呼吸障害検査（終夜睡眠ポリグラフィー）

2025年度

主な診療実績／退院患者数 870人

間質性肺炎	181人	気管支喘息、気管支拡張症	12人	在宅酸素療法	252人
肺炎、肺化膿症	182人	結核、肺非結核性抗酸菌症	17人	在宅人工呼吸療法	29人
慢性閉塞性肺疾患（COPD）	72人	気胸	34人	CPAP	23人
睡眠時無呼吸症候群	62人	コロナウイルス感染症	32人		
肺がん	39人				

医師紹介

医師名		職位	資格
森下 裕	MORISHITA HIROSHI	診療局長 兼 主任部長 兼 呼吸ケアセンター長	日本内科学会認定医・指導医／日本呼吸器学会専門医／大阪府難病指定医／身体障害者福祉法15条指定医（呼吸器機能障害）／がんリハビリテーション研修修了／緩和ケア研修修了
馬越 泰生	UMAKOSHI TAISEI	医長	日本内科学会認定医・総合内科専門医／臨床研修指導医
横山 将史	YOKOYAMA MASASHI	診療主任	緩和ケア研修修了／日本内科学会認定JMECC修了
田邊 英高	TANABE HIDETAKA	医員	日本専門医機構認定内科専門医／緩和ケア研修修了／臨床呼吸機能基礎コース講習修了／ICLS講習修了／日本内科学会JMECC～RRSコース修了
加藤 聡一郎	KATO SOICHIRO	医員	緩和ケア研修修了
紅林 亮汰	KUREBAYASHI RYOTA	医員	緩和ケア研修修了

肺腫瘍内科

肺がんの早期診断と最新のがん化学療法を実施



診療科 HP

診療の特色

- 肺がん、悪性胸膜中皮腫などの胸部悪性腫瘍を中心に診断、治療、緩和ケアまで一貫して実施。
- 外来化学療法科と連携して、外来での抗がん剤治療を実施。
- 専門性の高い看護師、薬剤師等とのチーム医療でがんに伴う種々の症状緩和など、高いQOLの維持をめざす。
- 地域の在宅往診可能な医師と連携して、緩和ケアがスムーズで行われるよう取り組みを推進。

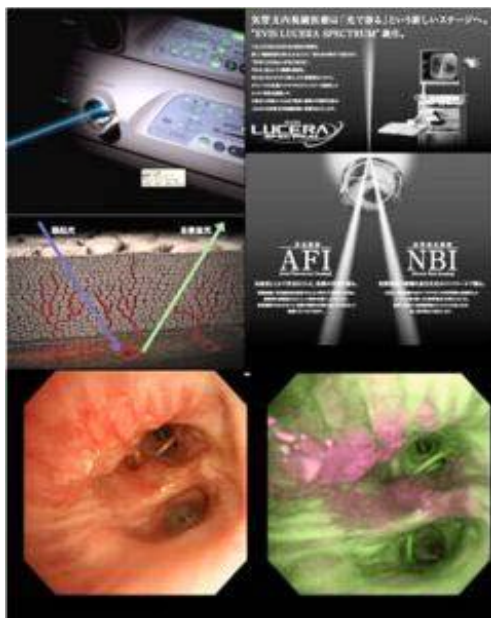
2025年度

主な診療実績／退院患者数 933人

肺がん 711人
その他悪性腫瘍 16人
他

外来化学療法件数

2019年度	1,988件	2023年度	1,907件
2020年度	1,944件	2024年度	2,134件
2021年度	1,723件	2025年度	2,204件
2022年度	1,722件		



蛍光気管支鏡による細胞診



気管支腔内超音波断層法(EBUS)

医師紹介

医師名		職位	資格
鈴木 秀和	SUZUKI HIDEKAZU	主任部長 兼 腫瘍センター長	日本内科学会認定医・総合内科専門医／日本がん治療認定医機構認定医／日本呼吸器学会専門医・指導医／緩和ケア研修修了／臨床研修指導医
森下 直子	MORIISHITA NAKO	副部長	日本内科学会認定医／日本呼吸器学会専門医／日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医／緩和ケア研修修了
佐藤 真吾	SATO SHINGO	医長	日本内科学会認定医・総合内科専門医／日本呼吸器学会専門医／緩和ケア研修修了
益弘 健太郎	MASUHIRO KENTARO	医長	日本内科学会総合内科専門医／日本呼吸器学会指導医／日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医／緩和ケア研修修了
柳瀬 隆文	YANASE TAKAFUMI	診療主任	緩和ケア研修修了
和田 紘実	WADA HIROMI	医員	日本専門医機構認定内科専門医／日本病態栄養学会認定NST研修修了／緩和ケア研修修了
藤本 豪	FUJIMOTO GO	医員	緩和ケア研修修了

感染症内科

結核は過去の病気ではありません



診療科 HP

診療の特色

- 主な対象疾患… 結核、非結核性抗酸菌症（非定型抗酸菌症）ならびに結核後遺症としてよく見られる肺アスペルギルス症等。
- 入院患者全員を対象に看護師による対面服薬確認ならびに結核に関する勉強会（院内DOTS）を実施。
- 通院可能となった患者は、院内DOTSカンファレンスで治療終了時期を決定し、保健所と協力して退院後の服薬支援を実施。
- 院内DOTS並びに院内DOTSカンファレンスへは、全国の保健所や病院から見学に来られる等、当センターの結核治療向上への取組は高く評価されています。
- 感染症内科外来は、一般外来とは別棟の「感染症センター」で診療を実施。
- 結核疑い患者は、診断が確定するまでは陰圧換気個室に入院。
- 感染症内科外来ならびに感染症病棟には高換気機器や空気殺菌器を設置し、感染症内科外来に排菌患者専用の待合室を設ける等、院内感染防止対策を徹底。

2025年度

主な診療実績／退院患者数 569人

肺結核、結核性胸膜炎など	197人
コロナウイルス感染症	35人
肺非結核性抗酸菌症	37人
肺アスペルギルス症	23人
他	



結核菌検査

核酸増幅法検査、液体培地法、迅速薬剤感受性試験法など最新の結核菌検査方法を導入し、喀痰塗抹陽性の90%以上は30日以内に結核菌の検出・同定並びに薬剤感受性試験成績の報告が可能。塗抹陽性検体に関しては、治療方針の根幹に関わるRFP（リファンピシン）の耐性遺伝子変異を迅速にチェックしています。

地域への啓発活動

- 【DOTSカンファレンス】保健所スタッフ、MSWも参加し、対面服薬確認治療について会議を行っています。
- 【結核勉強会】退院後の生活を見据えて指導を行っています。

その他

- すぐに入院が必要な患者さんについては、感染症外来へ直接ご連絡ください。
- 排菌している（疑いのある）患者さんには、来院時マスクの着用のご指導をお願いします。

医師紹介

医師名		職位	資格
永井 崇之	NAGAI TAKAYUKI	主任部長	緩和ケア研修修了
徳野 隼人	TOKUNO HAYATO	診療主任	日本医師会認定産業医／医師少数区域経験認定医師／ICLS 講習修了／FUNDAMENTAL CRITICAL CARE SUPPORT COUSE 修了
永井 裕太	NAGAI YUTA	医員	日本結核・非結核性抗酸菌症学会認定医／緩和ケア研修修了
山口 良太	YAMAGUCHI RYOTA	医員	緩和ケア研修修了
田村 嘉孝	TAMURA YOSHITAKA	臨床検査科主任部長 兼 感染症センター長	日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症指導医・推薦ICD／身体障害者福祉法15条指定医（免疫機能障害）／緩和ケア研修修了
橋本 章司	HASHIMOTO SHOJI	臨床研究センター長 結核・感染症研究室室長 感染対策チーム委員長	日本感染症学会専門医・指導医・推薦ICD／日本内科学会総合内科専門医／日本呼吸器学会専門医／日本アレルギー学会専門医（内科）／日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症指導医／日本医師会認定産業医／大阪府難病指定医／プログラム責任者養成講習会修了／緩和ケア研修修了

アレルギー・リウマチ内科

気管支喘息などのアレルギー疾患
関節リウマチなどの免疫関連疾患の最先端医療



診療科 HP

診療の特色

●喘息を中心としたアレルギー疾患（アレルギー性気管支肺アスペルギルス症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症など）の内科的な診療を行ってきましたが、6年ほど前からは膠原病・リウマチ疾患の診療にも注力しています。関節リウマチをはじめとして、リウマチ性多発筋痛症、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、混合性結合組織病、全身性強皮症、顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症など多彩な疾患の診療を行っています。膠原病では集学的な治療を必要とすることも多々ありますが、呼吸器内科、腎臓内科、皮膚科、耳鼻咽喉・頭頸部外科など他科との連携がとりやすいのも当センターの特徴です。アレルギー疾患については定期的に他科との合同カンファレンスも行っています。最近10年間で、これらの疾患の治療は大きく変化して、対症療法から、炎症を制御する本質的な治療に変化しました。特に抗体製剤などの分子標的薬は、ステロイドのような広範囲に作用する薬剤と異なって、疾患の原因因子を標的として特異的に作用することで、副作用の少ない有効な薬剤であることが期待されます。この大きな流れに沿って、最先端の知識や技術を取り入れて、適切に治療を実施しています。

●喘息の吸入指導と薬剤の管理を看護師、薬剤師と連携しておこなっています。リウマチケア看護師の資格を取得したスタッフも2名在職されていて、外来でのリウマチ患者のケアを積極的に行っています。当センターでも「治療と仕事の両立支援」に取り組んでいます。6月の診療報酬改訂で保険適用となりましたが、実際には慢性疾患を抱えながら働く患者さんの悩みは以前から存在していました。

喘息、アレルギー疾患、リウマチなども含め、病気を抱えながら働く世代を支えることは重要な医療の一つだと思っています。「働けるか」ではなく、「どうすれば働き続けられるか」その視点で支援していきます。

主な設備

- 胸部レントゲン検査、胸部CT検査、気管支鏡検査、関節エコー
- 精密肺機能検査、モストグラフを用いた気道抵抗の測定
- 各種アレルギー検査、各種カビ抗体の測定、呼気NOの測定、プリックテスト(皮ふテスト)

2025年度

主な診療実績／退院患者数 319人

気管支喘息・咳喘息	42人
関節リウマチ・膠原病	12人
アナフィラキシーショック	17人
コロナウイルス感染症	29人
他	

大阪アズマネットワーク

薬剤師を対象とした吸入指導法の勉強会です。近隣の薬剤師会の協力を得て、年2回行っています。喘息治療で最も大切な吸入ステロイドを患者さんが正しく使えるようにするために支援しています。吸入指導法だけでなく、喘息やCOPDなどの病気についても勉強しています。最近「大阪吸入指導マイスター制度」を立ち上げて、一定基準のレベルに達した薬剤師をマイスターとして認定して当科の外来で案内しています。



医師紹介

医師名		職位	資格
松野 治	MATSUNO OSAMU	主任部長	日本内科学会認定医・総合内科専門医／日本呼吸器学会専門医・指導医／日本アレルギー学会専門医・指導医（内科）／大阪府難病指定医／臨床研修指導医
柴原 理志	SHIBAHARA TAKAYUKI	医長	日本内科学会認定医・総合内科専門医／日本リウマチ学会専門医・指導医／日本アレルギー学会専門医（内科）／大阪府難病指定医
石田 裕	ISHIDA YUTAKA	診療主任	日本内科学会認定医・総合内科専門医／日本リウマチ学会専門医・指導医／緩和ケア研修修了
石田 かほり	ISHIDA KAHORI	レジデント	日本専門医機構認定内科専門医／緩和ケア研修修了

循環器内科

一般的な心血管疾患診療から
専門性の高い侵襲的治療まで幅広く対応



診療科 HP

診療の特色

患者さんのご希望と、心血管疾患の病態に基づいた、
「オーダーメイド治療」に対応・提案しています。

1. 侵襲的治療

- 虚血性心疾患のカテーテル治療
- 不整脈のアブレーション治療やペースメーカー治療
- 末梢動脈疾患のカテーテル治療

※手術室エリア内に心臓カテーテル専用室を新設。

2. 集学的治療

- 心不全の個別化治療
- 心臓リハビリテーション
- 急性心臓疾患の集中治療

3. 専門性の高い特殊検査

- 循環器系の非侵襲検査を充実
(冠動脈CT・核医学検査)

※心臓核医学検査を応用して、認知症の鑑別診断も行っています。

2025年度

主な診療実績 / 退院患者数 320人

疾患別

心不全	116例	心筋梗塞・心筋症	9例
狭心症	46例	肺動脈血栓症・静脈血栓症	3例
不整脈	74例	肺高血圧	2例

検査と治療

心臓エコー検査	3,903件
経食道心エコー	29件
頸部・下肢・上部血管エコー検査	1,323件
冠動脈CT検査	152件
心臓核医学検査	61件
心臓カテーテル検査	40件
PCI	17件
アブレーション	37件
ペースメーカー新規埋込み術	23件

主要検査

心臓超音波検査 / 頸部動脈・末梢血管超音波検査 / 血圧脈波検査 / 12誘導心電図 / 負荷心電図検査 /
ホルター心電図心臓運動負荷呼吸ガス分析 / 冠動脈CT検査 / 心臓核医学検査 / 心臓カテーテル検査 /
電気生理学的検査 / 心臓MRI 検査など



心臓カテーテル室



冠動脈 CT 検査



核医学検査

医師紹介

医師名		職位	資格
原田 光一郎	HARADA KOICHIRO	主任部長	日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医・JMECCインストラクター／日本循環器学会専門医／Fellow of Japanese Circulation Society／日本脈管学会専門医／日本心血管インターベンション治療学会認定医・心血管カテーテル治療専門医／日本心臓リハビリテーション学会認定指導士／日本循環器学会 ITC-AHA ACLSインストラクター及びコースディレクター／日本救急医学会 ICLSインストラクター／日本医師会認定産業医／日本静脈学会認定弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター／臨床研修指導医／緩和ケア研修会修了／大阪府難病指定医／身体障害者福祉法15条指定医（心臓機能障害・循環器内科）／心不全緩和ケアトレーニングコース（HEPT）修了
江角 章	EZUMI AKIRA	部長 兼 教育研修センター長	日本内科学会認定医・総合内科専門医／日本循環器学会専門医／日本医師会認定産業医／臨床研修指導医／大阪府難病指定医／緩和ケア研修修了／心不全緩和ケアトレーニングコース（HEPT）修了／厚生労働省指定オンライン診療研修修了／長時間労働医師への面接指導の実施に係る研修終了／シグタレン・シグキア・ミティキア処方可能医師
原田 博	HARADA HIROSHI	副部長	緩和ケア研修修了
井内 敦彦	IUCHI ATSUKIHIKO	副部長	日本内科学会認定医・総合内科専門医／日本心血管インターベンション治療学会認定医／臨床研修指導医／緩和ケア研修修了／緩和ケア研修修了者のためのフォローアップ研修修了／日本医師会JMAT研修修了

消化器内科

消化器系の悪性疾患をはじめ消化器疾患にわたる診療



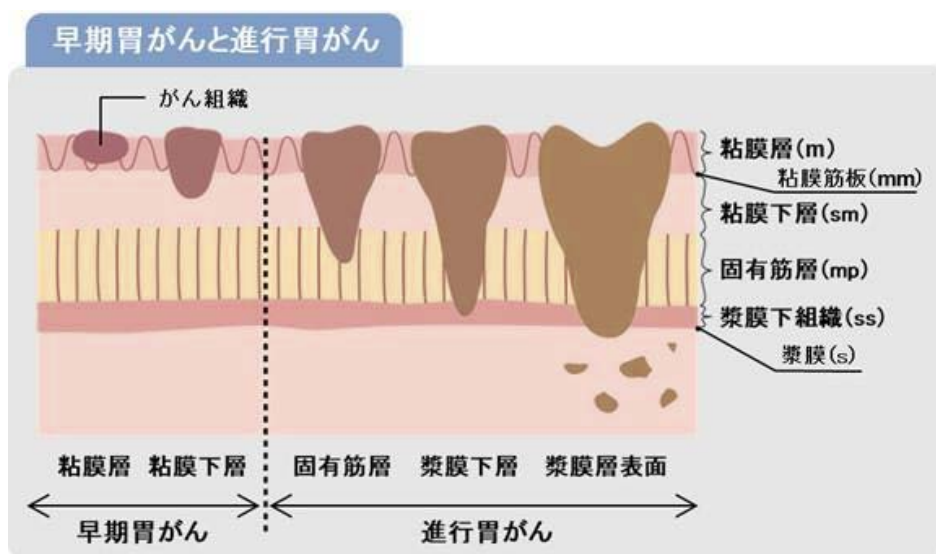
診療科 HP

診療の特色

当科は、主に消化管（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸など）疾患に対する消化器内視鏡検査、消化器内視鏡治療、薬物治療を実施。消化管関連癌に対しては、進行度に応じて外科、腫瘍内科、放射線科と連携し消化器内視鏡治療、腹腔鏡下手術、化学療法、放射線治療を組み合わせた集学的治療を提案。肝臓、胆嚢、膵臓疾患に関しても、エコー検査、CT検査、MRI検査、薬物治療を組み合わせた診断治療を実施。

2025年度主な診療実績

上部消化管内視鏡検査件数 991件
下部消化管内視鏡検査件数 247件



医師紹介

医師名		資格
伊藤 公子（非）	ITO KIMIKO	日本内科学会認定医／日本消化器内視鏡学会専門医／日本消化器病学会専門医／大阪府難病指定医／緩和ケア研修修了

他 非常勤医 5名

糖尿病・内分泌内科

代謝疾患と内分泌疾患の診療治療



診療科 HP

診療の特色

- 糖尿病・内分泌内科は2023年4月1日より新設された診療科です。
- 当科では糖尿病、脂質異常症、肥満症などの代謝疾患とともに甲状腺、下垂体、副腎などの内分泌疾患の診療治療を行います。
- 糖尿病の病態評価(病因、合併症)、知識習得および治療方針の決定のために、7～14日の入院をお勧めしています。医師、看護師、栄養士、薬剤師などの専門職スタッフが各職種の特徴を生かしてサポートさせていただきます。
- 内分泌疾患では各種血液検査、尿検査、画像検査にて診断を行い、治療方針を決定いたします。負荷試験など入院での精査が必要な症例に関しては近隣の病院をご紹介しますことができます。

主要検査

血液検査

血糖値 / HbA1c (ヘモグロビンA1c) / 血中Cペプチド / 尿中Cペプチド / 抗GAD抗体 / Cr / eGFR / 尿タンパク / 尿アルブミンなど

画像検査

頸動脈エコー / 甲状腺エコー / ABI など

2025年度

主な診療実績 / 退院患者数 104人

延べ入院患者数	1,531人
延べ外来患者数	4,962人
1型糖尿病	2人
2型糖尿病	54人
その他	48人

医師紹介

医師名		職位	資格
梶根 晋	KASHINE SUSUMU	主任部長	日本内科学会認定医・総合内科専門医 / 日本糖尿病学会専門医・研修指導医 / 日本内分泌学会内分泌代謝科(内科)専門医・指導医 / 日本循環器学会専門医 / 小児慢性特定疾病指定医(糖尿病・内分泌内科) / 大阪府難病指定医 / 臨床研修指導医
池田 守	IKEDA MAMORU	医長	日本糖尿病学会専門医 / 日本内分泌学会内分泌代謝科(内科)専門医 / 日本内科学会認定医・総合内科専門医 / 大阪府難病指定医 / 小児慢性特定疾病指定医(内分泌・代謝・糖尿病内科)

腎臓内科

早期の腎炎に対する治療から慢性腎臓病に対する腎代替療法まで
幅広い腎疾患を治療



診療科 HP

診療の特色

- 慢性腎臓病（CKD）の原因には、透析導入の原因疾患として最も多い糖尿病、高齢者に多い腎硬化症、腎炎や遺伝性腎疾患、薬剤による腎障害、悪性腫瘍・膠原病・感染症に関連し二次的に発生した腎障害など、多岐にわたります。何が原因なのかを可能な限り診断し、特に慢性腎炎や急速進行性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群では必要に応じて腎生検を行い、患者さんにとって最適な治療を行うことを心がけています。
- CKDが早期であれば、原因に対して治癒を目標に治療を行います。
- CKDが進行していれば、24時間蓄尿検査に基づいた適切な食事療法の指導や投薬を行い、患者さんの慢性腎臓病のさらなる進行を抑制します。
- 末期腎不全となれば血液透析・腹膜透析（腎代替療法）の導入を安全にできるようにサポートを行います。当センターでは腎移植を行っていませんが、希望される場合は、他院と連携し腎移植を進めていきます。
- 指定難病の申請を行っています。
- 合併症のため入院中の透析患者さん（感染症内科入院中の肺結核患者さんを含みます）に対して、入院中の透析治療を行います。

主な入院

- 腎生検入院：3日間
- 透析導入入院：約1～2週間程度。
腹膜透析では1ヶ月程度。
- ネフローゼ症候群や腎炎に対するステロイド・免疫抑制剤を使用する入院
- CKDの合併症に対する治療のための入院
- 電解質異常に対する治療のための入院
※患者さんの病状によって入院期間は変わることがあります。

主要検査

腎生検 / 腎臓超音波検査 / 24時間蓄尿検査

2025年度

主な診療実績／退院患者数 116人

- 外来紹介患者数 361名
うち、他院からのご紹介 237名
- 腎生検 24件
顕微鏡的多発血管炎 (MPA) 4件
IgA血管炎 (IgAV) 3件
IgA腎症 (IgAN) 7件
ループス腎炎 (LN) 2件
微小変化型ネフローゼ症候群 (MCNS) 1件
膜性腎症 (MN) 3件
腎アミロイドーシス 1件
続発性巣状糸球体硬化症 (FSGS) 1件
その他 (Others) 2件
- 各種腎炎に対するステロイド・免疫抑制剤投与のための入院 14件
- 血液透析 642件
血漿交換療法 12件
腹膜透析導入 2件
シャント造設 9件
シャントPTA 2件
腹膜透析カテーテル留置術 1件

医師紹介

医師名		職位	資格
飯尾 麗	IIO REI	主任部長	日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医／日本腎臓学会専門医・指導医／日本透析医学会専門医・指導医／腎代替療法専門指導士／大阪府難病指定医／臨床研修指導医
茂木 孝友	SHIGEKI TAKATOMO	診療主任	日本内科学会認定内科救急・ICLS講習会（JMECC）修了／緩和ケア研修修了
芝元 心一	SHIBAMOTO SHINICHI	医員	日本救急医学会 ICLSインストラクター／日本救急医学会 ICLS指導者養成ワークショップインストラクター／日本専門医機構認定内科専門医／日本内科学会 JMECCインストラクター／緩和ケア研修修了

呼吸器外科

肺がん・中皮腫から気胸まで肺と縦隔の手術を実施



診療科 HP

診療の特色

- 日本呼吸器外科学会専門研修基幹施設。
- 肺、縦隔の多様な疾患に対して多くの外科治療を実施。胸腔鏡下手術による低侵襲な外科治療を施行（ロボット支援手術・単孔式手術の実施）、術中CTを用いた画像支援手術を実施。
- 肺腫瘍内科・放射線治療科と連携し、集学的肺癌治療を実施。
- 低肺機能・合併症併存症例に対する肺機能を温存する外科的治療を実施。
- 感染性肺疾患に対する外科的治療を実施。

肺がん

当センターでは多く低侵襲な治療として胸腔鏡下手術による治療を実施しています。また近年、画像診断の進歩により早期肺癌の発見例が増えています。当センターでは詳細な画像診断による詳細な評価をもとに、小径の早期肺癌に対して、根治性を担保した肺機能温存を目的とした縮小手術（区域切除や肺部分切除）を積極的に行っています。また、肺門部肺癌や局所進行癌に対しては、肺腫瘍内科、放射線治療科と連携した抗癌剤治療・放射線治療を組み合わせ治療を行います。進行癌に対しても積極的に外科治療に取り組んでいます。病状にあわせて治療法・術式の個別化を進めています。

縦隔疾患

当センターでは縦隔腫瘍に対しても低侵襲手術を行っています。胸腺腫に対する胸腔鏡下手術では、CO₂送気を用いた人工気胸下の胸腺摘出術を施行しています。また進行病期例に対しては根治を目的とした集学的治療および開胸手術を行います。

気胸・肺嚢胞

当センターでは、青年期の男性に多く見られる気胸（原発性気胸）のみでなく、肺気腫や間質性肺炎など中高年に多い呼吸器基礎疾患に由来する気胸（続発性気胸）に対しても積極的に外科治療を行っています。気胸センターを開設し、内科的治療・外科的治療による多様な病状への対応を行っています。



他の疾患

胸腺摘除を要する重症筋無力症に対して、胸腔鏡下の拡大胸腺摘除術を行っています。炎症性肺疾患に対して、内科による病状評価及び治療の上、外科治療を行っています。肺感染症（結核、肺真菌症）や慢性膿胸に対しても肺機能を温存する手術を実施しています。良性肺腫瘍の治療及び肺生検は、主に内視鏡下に行っています。気管・気管支狭窄に対するステント留置術も対応しています。

2025年度

主な診療実績／退院患者数 305人

肺がん	148人
気胸	71人
炎症性肺疾患	9人
縦隔腫瘍	3人
他	

医師紹介

医師名		職位	資格
門田 嘉久	KADOTA YOSHIHISA	主任部長 兼 気胸センター長	日本外科学会専門医・指導医／日本胸部外科学会呼吸器外科専門医／日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医／日本がん治療認定医機構認定医／がんリハビリテーション研修修了／緩和ケア研修修了
北原 直人	KITAHARA NAOTO	副部長	日本外科学会専門医／日本胸部外科学会呼吸器外科専門医／日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医／日本がん治療認定医機構認定医／緩和ケア研修修了
谷口 聖治	TANIGUCHI SEIJI	医長	日本外科学会専門医／日本胸部外科学会呼吸器外科専門医／日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医／緩和ケア研修修了
石田 裕人	ISHIDA HIROTO	医長	日本外科学会専門医／日本胸部外科学会呼吸器外科専門医／日本呼吸器外科学会呼吸器外科専門医／日本呼吸器学会専門医／日本がん治療認定医機構認定医／緩和ケア研修修了
篠原 拓真	SHINOHARA TAKUMA	レジデント	緩和ケア研修修了

消化器外科

悪性疾患（胃・大腸・肝胆膵）／良性疾患（胆石・ヘルニア等）
および緊急手術に対応



診療科 HP

診療の特色

悪性疾患に対する治療

上部消化管・下部消化管・肝胆膵専門医が治療ガイドラインに準じて行い、手術、化学療法、放射線療法を組み合わせた集学的治療を実施。
内視鏡外科学会技術認定医も在籍し、安全で低侵襲な手術を施行。
婦人科・泌尿器科と連携し、骨盤外科としての拡大手術も施行。

良性疾患に対する手術・治療

胆嚢結石、ヘルニア、虫垂炎等の良性疾患に対する腹腔鏡下治療、ポート造設、胃瘻（腸瘻）作成。
急性胆嚢炎に対するPTGBDも施行。

腹部救急疾患

救急診療科と連携し、腹部救急診療を実施。消化器内科・消化器外科・婦人科・泌尿器科疾患等の幅広い救急疾患に対応。保存的（内科的）治療、緊急手術、または放射線科と連携し止血等のIVRも施行。
宿便イレウスに対するガストログラフィン注腸治療。

その他

消化器内科と協力し、上部・下部消化管内視鏡を実施。

主要検査

上部・下部消化管内視鏡検査 / 注腸造影
腹部超音波検査 / 経皮経肝胆嚢ドレナージ

2025年度

主な診療実績／手術件数

上部消化管	37件	肝胆膵	54件
下部消化管＋骨盤外科	135件	その他	104件

医師紹介

医師名		職位	資格
池田 公正	IKEDA KIMIMASA	主任部長	日本外科学会認定医・専門医・指導医／日本消化器外科学会認定医・専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医／大阪府難病指定医／臨床研修指導医／臨床研究・治験従事者研修修了／医療コンフリクト・マネジメント研修修了／がんリハビリテーション研修修了／緩和ケア研修修了／ジオン注四段階注射法講習会修了
柏崎 正樹	KASHIWAZAKI MASAKI	部長	日本外科学会専門医・指導医／日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医／日本消化器病学会専門医・指導医／日本内視鏡外科学会技術認定医（消化器・一般外科）／日本肝臓学会専門医・指導医／日本胆道学会指導医／日本膵臓学会指導医／日本肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技能指導医／日本がん治療認定医機構認定医／日本腹部救急医学会認定医／ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター(ICD)／大阪府難病指定医／臨床研修指導医／緩和ケア研修修了／緩和ケア研修修了者のためのフォローアップ研修修了／がんリハビリテーション研修修了／感染対策講習会修了
酒田 和也	SAKATA KAZUYA	副部長	日本外科学会認定医・専門医・指導医／日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医／日本大腸肛門病学会専門医・指導医／大阪府難病指定医／緩和ケア研修修了
福田 周一	FUKUDA SHUICHI	副部長	日本外科学会専門医・指導医／日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医／日本消化器病学会専門医・指導医／日本消化器内視鏡学会専門医／日本がん治療認定医機構認定医／日本腹部救急医学会認定医／日本食道学会食道科認定医／日本ヘルニア学会鼠径部ヘルニア修得医／緩和ケア研修修了
泉谷 祐甫	IZUTANI YUSUKE	診療主任	日本外科学会専門医／日本消化器外科学会専門医／日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医／緩和ケア研修修了

乳腺外科

乳がんの標準治療（外科治療・薬物療法・放射線治療）
乳がん再発治療を実施



診療科 HP

診療の特色

乳がんの早期発見と個別化治療

受診患者には主に視触診、マンモグラフィ、超音波検査を行い、異常が認められれば穿刺吸引細胞診や針生検、マンモトーム生検などの病理検査を実施。さらに乳がんの発見の感度が高いと言われている乳腺専用のコイルを用いた乳房MRI撮影を行い、画像診断と病理診断の整合性を確認した上で、乳がんと診断された患者には個々に合わせた治療を実施。乳房温存療法でセンチネルリンパ節生検を行う患者にはリンパ節転移が2個以下の場合には腋窩リンパ節郭清の省略も行い、術後のQOLも重視した治療を実施。また組織の免疫染色で乳がんのタイプ分類を行い、それぞれのタイプに合った薬物療法も実践。当センターは放射線科と連携し、乳癌術後放射線療法などを当施設で実施可能。

乳がん晩期再発の診断と治療

晩期再発は乳がんの手術治療が終わって5年以上経過して再発すること。通院を終了している患者もあり、突然咳や痛みなどの症状で来院される方や、術後10年以上経過して再発する患者もある。この診断には画像診断だけでなく、転移、再発部位の組織診断が重要。当センターでは晩期再発を疑う患者には積極的に再発部位の組織採取を行い、病理医、腫瘍内科医、放射線科医と一緒に晩期再発の診断を実施。また再発患者に対する緩和治療も実施。

乳房再建

形成外科医と連携して乳房再建術も実施。

主要検査

乳腺・甲状腺超音波検査 / 乳房X線検査（マンモグラフィ）
/ 乳房断層撮影 / 乳房造影MRI / センチネルリンパ節生検
/ 吸引式乳腺組織生検

2025年度主な診療実績

乳がん手術 89件
吸引式乳腺組織生検 31件
乳がん化学療法件数 436件

医師紹介

医師名		職位	資格
安積 達也	AZUMI TATSUYA	主任部長 兼 乳腺センター長	日本外科学会専門医 / 日本がん治療認定医機構認定医 / 日本乳癌学会乳腺専門医・乳腺指導医 / マンモグラフィ読影医 / 乳房超音波技術認定医 / 日本医師会認定産業医 / 緩和ケア研修修了 / HBOC 教育セミナー修了
渡邊 法之	WATANABE NORIYUKI	副部長	日本外科学会専門医 / 日本乳癌学会乳腺専門医・乳腺指導医 / 日本遺伝性腫瘍学会遺伝性腫瘍専門医 / マンモグラフィ読影医 / 乳房超音波技術認定医

産婦人科

産科から婦人科悪性腫瘍まであらゆる疾患に対応



診療科 HP

診療の特色

産婦人科としては、羽曳野・藤井寺・柏原市域における最大の施設。産婦人科救急（24時間医師が在院）にも対応。

産科

- 充実した体制の下、無痛分娩を含めた満足度の高い出産（立会い出産・母乳保育）を提供。
- 助産師（常勤）による、育児・母乳相談を実施。産後ケア入院にも対応。

婦人科

- 鏡視下手術（子宮鏡下手術、腹腔鏡下手術、ロボット支援下手術）を中心に実施。
- 悪性腫瘍に対しては、手術、放射線治療、遺伝子検査を含む最新の知見に基づいた集学的治療を実施。
- 月経困難・更年期障害、尿失禁などの女性ヘルスケアにも対応。
- 子宮頸部円錐切除、子宮鏡下手術は日帰りにも対応。

不妊

- 排卵誘発、人工授精まで対応（体外受精は除く）。

主要検査

超音波検査 / コルポスコピー / 子宮鏡検査 / 骨塩定量検査 / MRI 等各種画像診断

2025年度

主な診療実績 / 退院患者数 1,940人

子宮体がん	29件
子宮頸がん	9件
卵巣がん・卵管がん	25件
分娩件数	920件（うち無痛分娩：342件）
手術件数	608件（うち腹腔鏡下手術：131件、 子宮鏡下手術：71件、 ロボット支援下手術：61件）

その他

日本産科婦人科学会の認定医制度研修施設

はびきやまセミナー

はびきやまセミナーは、羽曳野市、藤井寺市、柏原市など近隣の地域で開業もしくは病院に勤務されている産婦人科の先生方を対象に行っている勉強会です。当センターの近況報告や最近の産婦人科の話題を提供する場として2005年から始まりました。大阪産婦人科医会承認の勉強会として毎年開催しておりますので、時間が許す限り奮ってご参加ください。
※詳細はホームページをご覧ください。

医師紹介

医師名		職位	資格
安川 久吉	YASUKAWA HISAYOSHI	主任部長	日本産科婦人科学会専門医・指導医 / 日本産科婦人科遺伝診療学会認定医 / 母体保護法指定医 / 日本がん治療認定医機構認定医 / 緩和ケア研修修了 / 日本周産期・新生児医学会 新生児蘇生法「一次」コース（Bコース）修了 / JALA 無痛分娩の安全な診療のための講習会（カテゴリーA）修了 / J-CIMELS ベーシックコース修了 / 日本産婦人科医会 硬膜外麻酔科での分娩を行うための講習（実習編）修了 / Da Vinci サージョンコンソールプログラム修了
長安 実加	NAGAYASU MIKA	副部長	日本産科婦人科学会専門医・指導医 / 日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医 / 母体保護法指定医 / 日本がん治療認定医機構認定医 / 緩和ケア研修修了 / Da Vinci サージョンコンソールプログラム修了
竹田 佳奈	TAKEDA KANA	医員	Da Vinci サージョンコンソールプログラム修了
車野 晃大	SHANO KODAI	医員	
西口 茉優	NISHIGUCHI MAYU	医員	緩和ケア研修修了
赤崎 功治	AKASAKI KOJI	医員	日本周産期・新生児医学会 新生児蘇生法「専門」コース（Aコース）修了 / 緩和ケア研修修了
赤田 忍	AKADA SHINOBU	副院長	日本産科婦人科学会専門医・指導医 / 母体保護法指定医 / 大阪府難病指定医 / Da Vinci サージョンコンソールプログラム修了

小児科

小児のアレルギー・呼吸器疾患の専門治療・
一般小児疾患にも幅広く対応



診療科 HP

小児科の特色

地域連携を図り、一般小児疾患の外来診療、
入院診療に幅広く対応

- 感染症（気管支炎、肺炎、急性胃腸炎、尿路感染症など）、熱性痙攣、川崎病などの一般小児疾患に幅広く対応
- 紹介患者の受け入れ・子どもの救急搬送患者に対応
- 肺炎・気管支炎の急性増悪には高流量酸素療法や体外式人工呼吸器を用いた治療を実施

アレルギー疾患、呼吸器疾患に幅広く対応

- 気管支喘息の急性増悪時の治療・長期管理を積極的に実施
- 食物アレルギーの食物経口負荷試験、経口免疫療法を積極的に実施
- 子どものアトピー性皮膚炎の治療を実施
- 咳や喘鳴が持続・反復する患者の鑑別診断・治療を積極的に実施
- アナフィラキシーやアレルギー症状に関する鑑別診断・原因検索・治療を積極的に実施
- 思春期・青年期は成人移行支援を意識した診療を実施
- 心理的側面が関与する患者には、臨床心理士が治療に参加

小児結核治療、結核接触者健診、コッホ現象対応を実施

小児循環器専門外来あり

(詳しくは地域医療連携室にお尋ねください)

主要検査

アレルギー検査（皮膚テスト・特異的IgE抗体測定・食物経口負荷試験）／呼吸機能検査／呼気中一酸化窒素測定／呼吸抵抗測定／運動負荷試験／気道過敏性検査／画像検査（レントゲン、CT、MRI）／超音波検査（頭部・心臓・腹部）／多項目同時PCR検査（マルチプレックスPCR検査）／副腎皮質予備機能検査（ACTH負荷試験）／睡眠時無呼吸検査／起立試験／心理検査（WISC-V、新版K式発達検査2020／箱庭療法／描画テスト）

2025年度

主な診療実績／退院患者数 2,039人

食物アレルギー	1,249件	気管支喘息	96件
肺炎・気管支炎 川崎病	149件 26件	ウイルス性腸炎 その他	38件 298件
地域経由の 紹介受入件数	515件	救急搬送受入件数 (小児のみ)	531件

その他

- 病診連携を目的に柏羽藤臨床懇話会を実施
- 小児看護専門看護師が小児病棟に在籍
- PAE（小児アレルギーエデュケーター）、CAI（アレルギー疾患療養指導士）が在籍
- 学校、保育所、幼稚園などを対象に、アレルギー関連の講習会を随時実施
- 隣接する大阪府立羽曳野支援学校と連携し、入院中の教育が可能
- 病棟保育士が小児病棟に在籍

新生児科

低出生体重児・呼吸障害・重症黄疸などの院内出生児への対応

院外出生児を含めNICU退院後乳児の発達発育の外来フォロー・抗RSウイルス抗体薬の投与の実施

新生児科の特色

- 南河内二次医療圏唯一の認可 NICU
- 学会認定新生児専門医・指導医が中心となって診療
- 原則として在胎35週以降に出生した児を治療
- 早産児、正期産児の呼吸障害に対する呼吸補助治療を実施
- その他、新生児感染症、重症黄疸などにも対応

主要検査

超音波検査（頭部、心臓、腹部）

2025年度

主な診療実績／総入院患者数 183人

低出生体重児 21例
呼吸障害（重複含む） 119例
他

その他

溶血性黄疸、高インスリン性低血糖など

- 重症新生児は新生児相互援助システムを通じて適切な施設に紹介
- 院外出生児を含めNICU退院後乳児の発達発育の外来フォローを実施
- 抗RSウイルス抗体薬の投与を実施

小児科・新生児科 医師紹介

医師名		職位	資格
吉田 之範	YOSHIDA YUKINORI	小児科 主任部長	日本小児科学会専門医・指導医／日本アレルギー学会専門医・指導医（小児科）／日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法「専門」コース（Aコース）インストラクター／小児慢性特定疾病指定医（小児科）／臨床研修指導医
和田 紀久	WADA NORIHIISA	新生児科 主任部長	日本小児科学会専門医・指導医・出生前コンサルト小児科医／日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法「専門」コース（Aコース）インストラクター／日本周産期・新生児医学会専門医
高岡 有理	TAKAOKA YURI	副部長	日本小児科学会専門医・指導医／日本アレルギー学会専門医・指導医（小児科）／小児慢性特定疾病指定医（小児科）／日本医師会認定産業医／大阪府難病指定医
深澤 陽平	FUKASAWA YOHEI	副部長	日本小児科学会専門医・指導医／日本アレルギー学会専門医・指導医（小児科）／臨床研修指導医
釣永 雄希	TSURINAGA YUKI	副部長	日本小児科学会専門医／日本アレルギー学会専門医（小児科）／日本小児感染症学会認定医／日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症指導医／臨床研修指導医／大阪府難病指定医
上野 瑠美	UENO RUMI	医長	日本小児科学会専門医・指導医／日本アレルギー学会専門医（小児科）
山口 智裕	YAMAGUCHI TOMOHIRO	医長	
米田 智樹	YONEDA TOMOKI	診療主任	緩和ケア研修修了
上角 亮介	JOKAKU RYOSUKE	レジデント	日本小児科学会専門医／緩和ケア研修修了／厚生労働省指定オンライン診療研修修了／臨床研修指導医
小菅 英美	KOSUGE EMI	レジデント	日本小児科学会専門医
中原 康輔	NAKAHARA KOSUKE	レジデント	緩和ケア研修修了
亀田 誠	KAMEDA MAKOTO	副院長 兼 医務局長 兼 アトピー・アレルギー センター長	日本小児科学会専門医・指導医／日本アレルギー学会専門医（小児科）／小児慢性特定疾病指定医（小児科）／大阪府難病指定医



診療の特色

皮膚に関するアレルギー性疾患の専門治療

1. アトピー性皮膚炎治療（特に重症例・難治例）に注力
 - 確立された多職種患者教育システムによる治療効果の向上：アトピーカレッジ（全年齢対象）（治療による早期改善と並行した教育入院）教育対象（中高校生～成人：本人、幼小児：保護者）
 - 心身相関に留意した全人的医療：小中学生の入院治療では、大阪府立羽曳野支援学校と連携し不登校合併例にも対応。
 - 豊富な経験に基づく、新規治療薬の適切な導入による重症例の長期寛解維持の達成、QOLの回復。
2. 成人食物アレルギー、薬剤アレルギー、接触皮膚炎の原因精査、加療。
3. 重症薬疹の入院加療。（血漿交換を含む）

アレルギー性疾患以外の難治性皮膚疾患全般に対応

水疱症、紅皮症、重症乾癬、脱毛症、化膿性汗腺炎、無汗症、膠原病（皮膚症状を主症状とするもの）など

分子標的治療薬による治療

（アトピー性皮膚炎・乾癬・慢性蕁麻疹など）

適応症例をみきわめ重症例に対して最善の加療を実施。

地域の皮膚科一般診療の二次、三次機関

带状疱疹、重症皮膚感染症、皮膚腫瘍（原則局所麻酔の範囲）手術などの入院加療。

皮膚科病棟20床（一般16、小児4）を有し、ほぼ随時入院加療が可能

医療設備・検査

- 紫外線全身照射設備（NB-UVB）、ターゲット型エキシマライト、エキシプレックス、紫外線手足照射器
- イオンフォレーシス（掌蹠多汗症など）
- 皮膚超音波検査（VenueSO）
- 皮内テスト、プリックテスト、光テスト
- パッチテスト、負荷試験（チャレンジテスト）、皮膚生検
- 発汗テスト

2025年度

主な診療実績／退院患者数 566人

アトピー性皮膚炎（重症・成人含む）	194人
薬疹・薬物過敏症	16人
食物アレルギー、アナフィラキシー	37人
带状疱疹	38人
悪性腫瘍	26人
他	

はびきのDチャンネル

ご紹介いただいた症例の情報共有と地域医療の啓発活動として、Webによる症例報告会を2か月に1回実施しています。この活動を通じて、皮膚疾患に遭遇することの多いプライマリケアの先生方にもご協力いただき、地域の皮膚科診療を支えていきたいと考えています。

医師紹介

医師名		職位	資格
片岡 葉子	KATAOKA YOKO	主任部長	日本皮膚科学会専門医・指導医／日本アレルギー学会指導医（皮膚科）／日本心身医学会心身医療「皮膚科」専門医／大阪府難病指定医／緩和ケア研修修了
木村 優香	KIMURA YUKA	診療主任	日本皮膚科学会専門医／大阪府難病指定医／緩和ケア研修修了
山村 優人	YAMAMURA YUTO	診療主任	日本専門医機構認定外科専門医／緩和ケア研修修了
中山 優花	NAKAYAMA YUKA	診療主任	日本専門医機構認定皮膚科専門医
佐藤 佳代	SATO KAYO	医員	大阪府難病指定医／緩和ケア研修修了／下肢創傷処置・管理のための講習会修了

耳鼻咽喉・頭頸部外科

アレルギー・鼻副鼻腔疾患の専門的診療と
耳鼻咽喉・頭頸部外科領域全般の診療



診療科 HP

診療の特色

耳鼻咽喉科領域のアレルギー・鼻副鼻腔疾患の専門的診療

- 難治性アレルギー性鼻炎に対して様々な検査を行うことで正確な診断を行い、免疫療法、手術療法、生物学的製剤などの様々な治療を組み合わせる。小児アレルギー性鼻炎では小児科と連携して舌下免疫療法を中心に治療。
- 難治性である好酸球性副鼻腔炎に対して、One airway one disease治療としてアレルギー・リウマチ内科と連携し、内視鏡下副鼻腔手術、生物学的製剤などの治療を包括的に実施。
- その他のアレルギー疾患、免疫疾患全般に対する精査。

甲状腺良性腫瘍および頭頸部腫瘍の精査、治療、バセドウ病の手術も実施

頭頸部腫瘍（頸部腫瘍、耳下腺、顎下腺、甲状腺など）の精査もエコー新機種を導入し、積極的に実施。

耳鼻咽喉・頭頸部外科領域全般の診療

- 難聴、耳鳴の精査、補聴器装用の必要性についても精査。新たにABR検査機器を導入し、小児についても難聴の精査を実施。
- 顔面神経麻痺の予後診断として欠かせないElectro-neurography (ENoG) も導入。
- めまいの精密検査であるビデオヘッドインパルス検査 (vHIT) を新たに導入。

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医研修施設、大阪大学医学部附属病院耳鼻咽喉科専門研修プログラム連携施設、日本アレルギー学会教育研修施設、日本気管食道科学会認定専門医研修施設（咽喉系）、日本鼻科学会鼻科手術認可研修施設

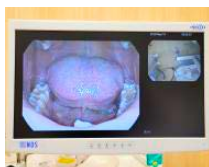
※地域の医療機関との勉強会である「はびきの耳鼻咽喉科セミナー」を年1回開催。

主要検査

- 電子ファイバースコープ検査PENTAX OPTIVISTA PLUS 高精細な内視鏡画像システム
- アレルギー検査・鼻腔通気度検査
- 平衡機能検査（赤外線CCDカメラ装置、重心動揺検査、ENG、ビデオヘッドインパルス検査 (vHIT)）
- 聴力検査（純音聴力検査、語音聴力検査、耳鳴検査、ABR）
- 顔面神経麻痺検査 (Electroneurography (ENoG))
- 超音波検査
- 味覚検査・嗅覚検査（静脈性嗅覚検査、基準嗅力検査）
- 内視鏡下副鼻腔手術内視鏡システムナビゲーションシステムを新病院で更新

2025年度主な診療実績

内視鏡下鼻・副鼻腔手術（II～IV型）	189件
鼻中隔矯正術	1件
内視鏡下鼻腔手術I型（下鼻甲介手術）	205件
口蓋扁桃手術（摘出）	152件
アデノイド切除術	25件
耳下腺腫瘍摘出術（耳下腺浅葉摘出術）	4件
甲状腺腫瘍摘出術	6件
鼓膜（排液、換気）チューブ挿入術他	22件



外来内視鏡システム



顔面神経麻痺検査
およびABR検査など



めまいの精査vHIT



超音波検査



内視鏡下副鼻腔手術

医師紹介

医師名	職位	専門分野	資格
川島 佳代子 KAWASHIMA KAYOKO	副院長 兼 主任部長 兼 患者総合支援センター長	鼻副鼻腔 アレルギー	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・専門研修指導医／日本アレルギー学会指導医（耳鼻咽喉科）／日本鼻科学会鼻科手術暫定指導医／日本喘息学会専門医／厚生労働省認定補聴器適合判定医／日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定補聴器相談医／臨床研修指導医／身体障害者福祉法15条指定医（聴覚障害、平衡機能障害、音声言語機能障害、そしゃく機能障害）／大阪府難病指定医／大阪府医師会指定学校医／厚生労働省臨床研究・治験従事者研修修了／緩和ケア研修修了／TNT(Total nutrition therapy)研修修了／嚥下機能評価研修修了／大阪府災害医療研修修了／アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法講習会修了／病院職員勤務評価制度評価者研修指導者養成研修修了／日本医師会ACLS・ACLS大阪修了／日本医師会医療安全推進者研修修了／日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会全国身体障害者福祉医療講習会修了／急性期病棟におけるリハビリテーション診療、栄養管理、口腔管理に係る医師研修会修了／日本防災士機構認定防災士
秋田 佳名子 AKITA KANAKO	医長	鼻副鼻腔 甲状腺	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医／日本アレルギー学会専門医（耳鼻咽喉科）／大阪府難病指定医
名古 周平 NAKO SHUHEI	医員	耳鼻咽喉科 一般	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医／緩和ケア研修修了
武 哲平 TAKE TEPPEI	医員	耳鼻咽喉科 一般	緩和ケア研修修了
篠田 佑乃 SHINODA YUNO	レジデント	耳鼻咽喉科 一般	緩和ケア研修修了

泌尿器科

泌尿器科領域の悪性疾患や排尿障害
尿路結石などあらゆる疾患に対応



診療科 HP

診療の特色

- 副腎、腎臓、尿管、膀胱、前立腺、精嚢、尿道、精巣、陰茎、陰嚢に関する泌尿器科疾患全般を扱い、前立腺癌検診、超音波診断、CT、MRIなどの画像診断、また軟性膀胱鏡検査や尿流量測定などにより泌尿器科専門医が専門的な治療を提供。
- ダビンチを用いての前立腺、腎尿管、膀胱領域の悪性腫瘍に対するロボット支援手術を提供(腎盂形成術、仙骨靭固定術を含む)。
- 体外衝撃波結石粉碎装置による尿路結石に対する新たな治療法を提供。

主要検査

軟性膀胱鏡検査

経尿道的(尿道から)に内視鏡を挿入し、尿道・膀胱・前立腺を観察する検査です。当科では、細くやわらかく滑らかに曲がるスコープを導入し、苦痛を大幅に抑え施行することが可能です。日帰りで行うことができ、検査日以前の準備や処置の必要もありません。

尿流測定検査

この検査では、「尿流量測定装置」を使って尿の出方を測定します。いつものように排尿するだけで、尿の勢い・1回排尿量・排尿時間などを測定します。また、この検査の後に残尿を測定することで、より多くの情報が得られます。

前立腺超音波検査

前立腺の形や大きさ、また前立腺内部及び周囲の状態を超音波で調べる検査です。お腹からの超音波検査は一般的ですが当科では専用のプローブを用い肛門から行います。経直腸的超音波検査は腹部からの超音波検査に比べて鮮明な画像が得られるため、より正確な検査が行えます。そのため、前立腺がんの超音波検査には直腸から行う経直腸的超音波検査が多く用いられます。

2025年度

主な診療実績／退院患者数 554人

前立腺がん 160件 | その他悪性腫瘍 17件
膀胱がん 85件



内視鏡手術支援ロボット
インテュイティブサージカル製 Da Vinci Xi



結石破碎装置
Modulith SLX-F2



膀胱腎盂ビデオスコープ

医師紹介

医師名		職位	資格
福井 辰成	FUKUI TATSUNARI	主任部長 兼 ロボット手術 センター長	日本泌尿器科学会専門医・指導医／臨床研修指導医／身体障害者福祉法15条指定医(腎臓機能障がい・ぼうこう又は直腸機能障害)／日本医師会認定産業医／緩和ケア研修修了／RI内用療法における適正使用に関する安全講習会修了／Da Vinci サージカルシステム認定資格／がんリハビリテーション研修修了
岩西 利親	IWANISHI TOSHICHIKA	副部長	日本泌尿器科学会専門医・指導医／日本泌尿器科学会日本泌尿器内視鏡・ロボスティック学会泌尿器腹腔鏡技術認定医・泌尿器ロボット支援手術プロクター認定医／日本がん治療認定医機構認定医／Da Vinci サージカルシステム認定資格
山口 誓司	YAMAGUCHI SEIJI	院長	日本泌尿器学会専門医・指導医／日本腎臓学会専門医・指導医／日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医／日本内視鏡外科学会泌尿器腹腔鏡技術認定医／日本臨床腎移植学会専門医／日本がん治療認定医機構認定医／日本環境感染学会推薦ICD／日本医師会認定産業医／泌尿器ロボット支援手術認定プロクター／Da Vinci サージカルシステム認定資格／緩和ケア研修修了

整形外科

上肢下肢の骨折・股関節膝関節障害の診断と
保存・手術治療を中心に診療



診療科 HP

診療の特色

- 高齢化社会に伴い増加する上肢・下肢骨折に対する保存・手術治療。
- 股関節・膝関節障害に対するロボット支援下の人工関節手術。
- 併存症や高齢などで手術に注意を要する患者様にも、循環器内科や呼吸器内科など各診療科と連携し、安全性の高い入院診療を提供。

四肢骨折、関節障害への手術治療

- 高齢化社会に伴い、大腿骨近位部や橈骨遠位端、上腕骨近位端などの脆弱性骨折が増加しています。各診療科や他職種と連携し、早期手術とリハビリテーションにより、安全な治療と早期回復を目指しています。
- 変形性股関節症や膝関節症などによる関節痛、歩行障害に対して、保存療法の効果が乏しく疼痛・歩行障害が増悪した患者様には、人工関節を中心とした手術治療を行っています。3次元コンピュータ術前計画と連動した最新のロボット支援下手術により、正確で安全性の高い手術操作やインプラント設置が可能となり、優れた人工関節の耐久性の獲得や脱臼などの合併症防止にも有用です。
- 四肢や脊椎の脆弱性骨折を有する患者様には、適宜X線、骨密度測定、血液検査による骨粗鬆症評価と薬物治療をおこない、さらなる骨折の発生予防に努めています。
- 脊椎外科の常勤専門医は在籍しておりませんが、腰部脊柱管狭窄症などの脊椎疾患に関しては、非常勤の脊椎専門医師の診察にて、適切な病態評価と治療方針の決定をはかっております。



上腕骨遠位端骨折（術前・術後）



ロボティックアーム手術支援装置
（股関節・膝関節用）
ストライカー製 Makoシステム



人工股関節全置換術後

2025年度

主な診療実績／退院患者数 202人

うち骨折 118例（大腿骨、腰椎他）
股・膝関節症 35例
他

医師紹介

医師名		職位	資格
西井 孝	NISHII TAKASHI	主任部長	日本整形外科学会専門医・認定運動器リハビリテーション医／日本人工関節学会認定医／大阪府難病指定医／緩和ケア研修修了
谷内 孝次	YACHI KOJI	副部長	日本整形外科学会専門医／大阪府難病指定医
石田 和大	ISHIDA KAZUHIRO	医長	緩和ケア研修修了

歯科口腔外科

口腔外科疾患に対応し、
周術期等口腔機能管理・口腔ケアを実施



診療科 HP

診療の特色

- 口腔外科疾患を対象に、診断、治療、手術を実施しています。手術は、全身麻酔や静脈内鎮静でも対応しています。
- 親知らずや埋伏過剰歯などの抜歯、全身管理が必要な抜歯
歯性感染症や薬剤関連顎骨壊死
口腔周囲や顎骨の嚢胞・腫瘍
軟組織損傷や骨折などの顎顔面外傷
口腔粘膜疾患、口腔乾燥
顎関節疾患
閉塞性睡眠時無呼吸（口腔内装置での治療）
唾液腺疾患（耳下腺除く）の診療を行っています。
- 当センターで手術や化学療法を行う患者さんに対しては、周術期等口腔機能管理を行い、治療中の併発症を予防し、順調な治療と回復をサポートします。
- 誤嚥性肺炎など細菌性肺炎の治療には、口腔ケアが重要です。必要な入院患者さんに対しては口腔ケアを行い、早期の回復を支援します。
- 入院患者さんに対しては、応急的な歯科治療を行い、退院後に地域の歯科医療機関で継続治療していただけるよう連携します。外来診療では、一般歯科治療（虫歯、入れ歯、定期検診など）は行っておりません。
- 原則、かかりつけ歯科医院や医療機関からご紹介いただいた患者さんを診療させていただきます。

主要検査

疾患に応じ、画像検査（CT、MRI、超音波検査）や病理組織検査を行います。
閉塞性睡眠時無呼吸の口腔内装置作製時には、経鼻内視鏡検査で効果の高い装置の提供に努めています。

2025年度主な診療実績

外来手術・検査	313症例
全身麻酔手術	33症例
静脈内鎮静手術	20症例

医師紹介

医師名		職位	資格
助産 美帆	SUKEDAI MIHO	主任部長	日本口腔外科学会認定医・専門医／日本口腔科学会認定医／緩和ケア研修修了／基礎研究医養成活性化プログラム「地域で活躍するForensic Generalist, Specialist の育成」インテンシブコース（歯科医師コース）修了／臨床研修指導医／日本病態栄養学会認定NST研修修了

心臓血管外科

心臓・大血管・末梢血管に対する外科治療



診療科 HP

診療の特色

当科は2023年に新病院開設に伴い、新設されました。冠動脈疾患や弁膜症などの心臓疾患、大動脈瘤などの大血管疾患、内臓動脈瘤や末梢動静脈疾患、慢性透析患者に対する診察を行います。

近隣地域の開業医の先生方へ

現在、当センターでは、透析シャント作成に対して準備はできております。

循環器内科、腎臓内科と連携し、腹部大動脈瘤や末梢動静脈疾患の診察を行っております。

2026年5月現在非常勤医による月2回の診察となっております。

患者さんには大変ご不便をおかけしますが、ご理解の程宜しくお願いします。

医師紹介

非常勤医1名（第2・第4・第5火曜日がある月は勤務）



診療の特色

- 現在眼科は非常勤医のみの診察になります。
一般診察の受付時間は、月・火・木・金の午前（9時00分～10時30分）までです。
患者さんには大変ご不便をおかけしますが、ご理解の程宜しくお願いします。
- 紹介状をお持ちでなくても受診可能ですが、予約や紹介患者様が優先になります。
初診申込みは、事前にかかりつけ医を通して、診察予約をとってから、受診していただくようお願いします。

医療設備・検査

- 細隙灯顕微鏡検査
- フルオレセイン蛍光眼底造影検査（FAG）
- 動的視野検査
- OCT

2025年度主な診療実績

延べ外来患者数 3,300人

医師紹介

非常勤医師4名、視能訓練士1名

麻酔科

重症の低肺機能患者や
様々な併存疾患患者の周術期管理に対応



診療科 HP

診療の特色

麻酔・周術期管理

院内診療科の全身麻酔、硬膜外麻酔、脊椎くも膜下麻酔を担当。

一般的な合併症症例をはじめ、様々な呼吸器系合併症症例の麻酔管理に対応。特に、慢性閉塞性肺疾患、喘息を合併した症例や、結核やその他の呼吸器感染症の治療中や治療直後の症例、さらには、進行し在宅酸素療法を必要とする重症の低肺機能症例や気道狭窄症例の周術期管理にも対応。

外科系全診療科と術前症例検討会を行って、術前問題点についての検討や必要な症例には術前管理に関する助言を実施。術後全身管理に関しても、特に重症症例について積極的に助言・協力を実施。

新病院開院でハイブリッド手術室や手術支援ロボット手術室を得て、近年増設された泌尿器科、整形外科、心臓血管外科、口腔外科などの多様な手術にも対応。

術後疼痛管理

局所麻酔薬の持続硬膜外投与やオピオイドの持続静脈投与、あるいは各種末梢神経ブロックなどを用いて、術後疼痛に対し積極的に対応。

ペインクリニック・緩和ケア

ペインクリニックは入院患者に対し、個別に対応。また緩和ケアに参画し、癌性疼痛患者の疼痛管理に助言・協力。

医療設備

麻酔器 / 生体情報モニタ / 脳波モニタ
筋弛緩モニタ / 超音波診断装置 /
血液ガス・電解質分析装置 / 気管支ファイバー

2025年度主な診療実績

麻酔科管理：1,527症例

全身麻酔 1,333症例
（うち硬膜外麻酔併用：387例）
（神経ブロック併用：259例）
脊髄くも膜下麻酔 194症例
（うち硬膜外麻酔併用：10例）
（神経ブロック併用：30例）

気道管理

分離肺換気 220症例
気道手術 1症例

医師紹介

医師名		職位	資格
高内 裕司	TAKAUCHI YUJI	主任部長	日本麻酔科学会専門医・指導医 / 日本集中治療医学会専門医 / 臨床研修指導医 / 緩和ケア研修修了
大橋 祥文	OHASHI YOSHIFUMI	部長	日本麻酔科学会認定医・専門医・指導医 / 日本集中治療医学会専門医 / 麻酔科標榜医 / 緩和ケア研修修了
安藝 裕子	AKI YUKO	医長	麻酔科標榜医 / 緩和ケア研修修了
後藤 佳澄	GOTO KASUMI	診療主任	日本専門医機構認定麻酔科専門医 / 麻酔科標榜医

集中治療科

急性の呼吸不全や循環不全に対する
高度な呼吸管理と専門医療を提供



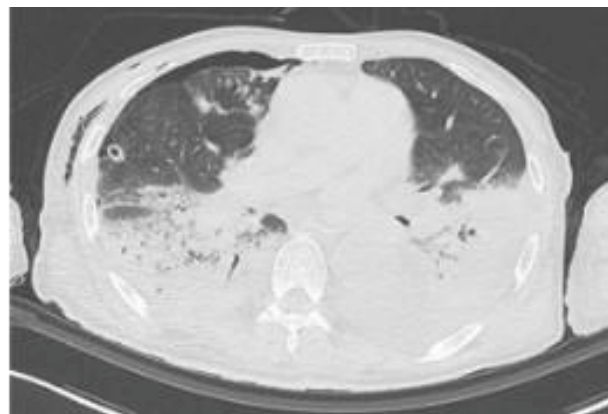
診療科 HP

診療の特色

- 集中治療とは、内科・外科を問わず、生命の危機にある急性期重症患者を、24時間の厳重な観察のもとに、先進医療技術を駆使して集中的に治療することで、救命し、病態の安定化および回復を図ることを目指す急性期全身管理医学。
- 集中治療専門医1名を有し、看護師、理学療法士、臨床工学技士、薬剤師、呼吸ケアサポートチームとともに多職種からなる診療チーム（ICU診療チーム）を立ち上げ、日勤帯には集中治療室専任医師が常駐する体制で重症疾患治療部門を運営。
- 各専門診療科と連携して、院内および院外からの重症患者を受け入れ、ARDSやCOPD増悪、気管支喘息重積発作などの急性呼吸不全・慢性呼吸不全急性増悪をはじめ、ショック・心不全や急性腎障害、意識障害、重症感染症など様々な重症病態・多臓器不全に対する集学的治療を実施。
- 早期からの経腸栄養療法や早期リハビリテーションを導入し、さらに、人工呼吸管理中も睡眠の調節および日中積極的な覚醒下での管理による患者とのコミュニケーションを図ることで、患者を救命できるだけではなく、さらに、以前の家庭生活や社会生活が送れるレベル、ICU退室後の社会参加までを視野に入れた最良の回復を目指す。

ARDS（急性呼吸窮迫症候群）

肺炎や敗血症などの感染症、急性脾炎、多発外傷など、様々な先行疾患が引き金となって発症する重篤な呼吸障害。胸部レントゲンでは、両側性の肺浸潤影が認められる。ARDSを引き起こす原疾患は、肺炎や尿路感染症などの細菌感染から多発外傷、熱傷、ARDSでは、一般的に行われる酸素吸入では十分に酸素を体内に取り込むことが困難な重篤な呼吸不全を発症するため、人工呼吸器を用いた呼吸管理を行う必要がある。その多くの場合は、気管挿管を行った上で侵襲的人工呼吸管理を行うが、集中治療科でも、専任医師の管理のもと、習熟したスタッフにより実施している。



ARDSの胸部CT

早期離床・早期リハビリテーション

近年、ICUにおける患者の救命率は向上したが、病状が回復しICUを退室した患者において、退院後も運動機能やメンタルヘルスの障害が高率に発生し、患者の生活の質（QOL）を損ない、社会復帰への妨げとなることが大きな問題となっている。このような患者に対し、人工呼吸管理中から早期離床・早期リハビリテーションを行うことで、ICU退室時や退院後の患者の筋力回復や機能的自立度の改善効果が期待できる。

当科では、集中治療科医師、看護師、理学療法士により共同して、人工呼吸管理中の重症患者への早期離床・早期リハビリテーションのためのプログラムを作成し、入室後速やかに介入を開始し、理学療法士、看護師、医師が協力しながら、人工呼吸管理中でも積極的に座位保持、立位、歩行へと離床を行っている。

医師紹介

医師名		職位	資格
柏 庸三	KASHIWA YOZO	主任部長	日本集中治療医学会専門医 / 日本内科学会認定医・総合内科専門医 / 日本呼吸器学会専門医・指導医 / 日本呼吸療法医学会専門医 / 臨床研修指導医

救急診療科

呼吸器疾患をはじめ急性腹症・循環器疾患・
一般外傷など幅広い救急初期診療を提供



診療科 HP

診療の特色

- 2022年4月より救急診療科を開設。
- 日本救急医学会専門医・指導医が、平日時間内は救急室に常駐して、初期から二次救急に迅速対応。
- 病院各科と連携して、重症度を問わず、呼吸器疾患をはじめとして急性腹症、循環器疾患、一般外傷などの幅広い急性期疾患に対する初期診療を提供。



2025年度主な診療実績

救急搬送受入件数 2,371例



医師紹介

医師名		職位	資格
廣田 哲也	HIROTA TETSUYA	主任部長	日本救急医学会専門医・指導医／日本病院総合診療医学会認定医・特任指導医／ 麻酔科標榜医／日本救急医学会 ICLSコース インストラクター・ディレクター／臨床 研修指導医／大阪府難病指定医／臨床研修プログラム責任者養成講習会修了／脳梗 塞急性期 rt-PA 静注療法の適正使用のための講習会修了／緩和ケア研修修了

画像診断科・放射線治療科

CT・MRIや核医学検査などの画像診断
IVRおよび放射線治療



診療科 HP

診療の特色

画像診断

- CT検査、MRI検査、ラジオアイソトープ検査などの画像検査を施行。
- CTは2台のマルチスライスCT装置（DualEnergy CT装置）が稼動。
- MRIは2台（1台は1.5T、もう1台は3T）の装置が稼動。
- 当施設は日本乳がん検診精度管理中央機構のマンモグラフィー検診施設・画像認定施設【デジタル（ソフトコピー）】。
- CT、MRI およびラジオアイソトープ検査は、地域医療連携室を介して受託施行。画像診断報告書と画像データ（CD-ROM）は、原則として1～2診療日以内にご依頼いただいた医療機関に郵送。

IVR (interventional radiology) / 画像ガイド下治療

- カテーテルや専用の穿刺針などを使用し、画像ガイド下に治療を実施。
- 持続する血痰や咯血に対する気管支動脈などの動脈塞栓術、産科危機的出血に対する動脈塞栓術、内視鏡治療で止血困難な消化管出血に対する動脈塞栓術、上大静脈症候群に対する SVCステント留置術、CTガイド下生検、CTガイド下ドレナージなどを院内の各診療科からの依頼を受けて施行。

その他の検査・治療

- 心臓カテーテル検査は循環器内科医が担当施行。
- 気管支鏡検査および気管支鏡ガイド下の治療（肺腫瘍内科医と呼吸器内科医が担当）や子宮卵管造影（婦人科医が担当）なども施行。

放射線治療

- 根治から緩和まで幅広い放射線治療を実施。適応に関する相談や入院での照射希望や化学放射線療法についても地域医療連携室へご連絡をお願いいたします。

2025年度主な診療実績

一般撮影	52,898件	血管造影検査	273件
歯科	1,219件	CT	16,668件
骨塩定量	1,111件	MRI	3,733件
マンモグラフィ	3,110件	放射線治療	4,285件
気管支鏡検査	385件	アイソトープ検査	543件



3T 磁気共鳴画像診断装置 (MRI)
シーメンス製 MAGNETOM Vida



Dual Source CT 装置
シーメンス製 SOMATOM Drive



血管造影X線装置
フィリップス製 Azurion7 C20



リニアック（直線加速器）
バリアン製 True Beam

医師紹介

画像診断科

医師名		職位	資格
竹下 徹	TAKESHITA TORU	画像診断科 主任部長	日本医学放射線学会放射線診断専門医・研修指導者／日本インターベンショナルラジオロジー学会 IVR専門医・指導医／緩和ケア研修修了
小林 亜衣	KOBAYASHI AI	画像診断科 医長	日本医学放射線学会放射線診断専門医・研修指導者／日本専門医機構認定放射線科専門医
田代 茜子	TASHIRO AKANE	画像診断科 医員	日本専門医機構認定放射線科専門医
山路 隆紘	YAMAJI TAKAHIRO	画像診断科 レジデント	

放射線治療科

医師名		職位	資格
板垣 康	ITAGAKI YASUSHI	放射線治療科 主任部長	日本専門医機構認定放射線科専門医／日本医学放射線学会研修指導者／日本放射線腫瘍学会放射線治療専門医／日本核医学会核医学専門医／マンモグラフィ読影医／緩和ケア研修修了

※非常勤画像診断医6名／非常勤放射線治療医2名／診療放射線技師17名

放射線関連 専門技師

第1種放射線取扱主任者：3名／放射線治療専門放射線技師：2名／放射線治療品質管理士：1名／検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師：4名／肺がんCT検診認定技師：7名／日本X線CT専門技師認定機構 CT認定技師：4名／血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師：1名／医療情報技師：3名／磁気共鳴専門技術者：1名／臨床実習指導講習受講者：3名／Ai認定診療放射線技師：2名／医用画像情報精度管理士：1名

臨床検査科

迅速かつ正確な検査結果の報告



診療科 HP

診療の特色

- アレルギーの原因を突き止めるために、多数のアレルギー項目を測定。
- アトピー性皮膚炎の皮膚病変のモニタリングに有用なTARCの検査。
- 抗カピ抗体の免疫血清検査。
- フローサイトメトリーで免疫機能の状態を調べる検査。
- 肺胞洗浄液から、アスベスト小体の検出や肺内の病気を調べる検査。
- 結核菌検査では、より効率の良い集菌、蛍光染色法を用い、喀痰中の結核菌の有無を、迅速の場合、約15分で報告。
- 結核菌やマイコプラズマの遺伝子検査。
- 長時間必要な結核菌の培養や薬剤感受性試験を最短2週間で報告。
- 睡眠時無呼吸症候群の検査（1泊）やその治療（2～3日の入院）。
- 精密呼吸機能検査が充実しており、呼吸抵抗なども測定。また測定結果から肺年齢の判定が可能。精密呼吸機能検査については、地域連携を通じて依頼を受け、実施。
- 心臓・血管、腹部、乳腺を含む体表などの超音波検査。
- 聴覚、嗅覚、味覚、平衡感覚などの生理機能検査。

2025年度検査件数

生化学・免疫検査	1,149,616項目
血液検査	109,779件
一般検査	29,828件
アレルギー検査	44,746件
輸血検査	8,898件
その他検体検査	33,286件
一般細菌検査	14,898件
抗酸菌（結核菌）検査	8,998件
遺伝子検査等	2,863件
呼吸機能検査	22,157件
心電図検査	6,679件
超音波検査	9,628件
その他生理検査	4,146件

主要検査

生化学・免疫検査

肝機能等やアレルギーの原因物質、免疫抗体等の検査

血液検査・輸血検査

赤血球、白血球数等の測定や血球細胞の分類、血の固まり易さの検査

一般検査

尿、便の検査、喀痰、鼻汁中の好酸球の検査

細菌検査

感染症と思われる検体から、その原因を見つけ、有効な薬剤の探索

生理機能検査

肺活量や心電図、超音波検査などの、身体の機能を計測する検査

医師紹介

医師名		職位	資格
田村 嘉孝	TAMURA YOSHITAKA	主任部長 兼 感染症センター長	日本結核・非結核性抗酸菌学会結核・抗酸菌症指導医・推薦 ICD / 身体障害者福祉法15条指定医（免疫機能障害） / 緩和ケア研修修了

※臨床検査技師全34名

資格保有
人数一覧

細胞検査士：6名 / 国際細胞検査士：2名 / 認定臨床化学・免疫化学制度保証管理検査技師：1名 / 認定血液検査技師：1名 / 認定病理検査技師：2名 / 認定臨床微生物検査技師：2名 / 緊急臨床検査士：7名 / 2級臨床検査士（臨床化学）：1名 / 2級臨床検査士（血液学）：1名 / 2級臨床検査士（病理学）：2名 / 2級臨床検査士（微生物学）：3名 / 2級臨床検査士（呼吸生理学）：1名 / 心電図検定3級：4名 / 超音波検査士（循環器）：3名 / 超音波検査士（消化器）：2名 / 超音波検査士（体表臓器）：4名 / 超音波検査士（泌尿器）：1名 / 超音波検査士（産婦人科）：2名 / 超音波検査士（健診）：1名 / 細胞治療認定管理師：1名 / 感染制御認定微生物検査技師（ICMT）：2名

リハビリテーション科

急性期から亜急性期のリハビリテーションを実施



診療科 HP

診療の特色

- 呼吸リハビリテーション
入院患者を対象として、主に①運動時の評価、必要酸素吸入量の設定、②病態に合わせた呼吸法や呼吸困難感を緩和できる日常生活動作方法の指導、③適切な運動負荷の設定や運動の処方など、を提供。
- 摂食・嚥下リハビリテーション
入院患者を対象として、嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査を用いた詳細な評価と言語聴覚士による治療介入を実施。また、耳鼻科医師・歯科医師・看護師・薬剤師・言語聴覚士等によって構成された嚥下サポートチームによる回診を実施。
- 2021年度よりがんリハビリテーション、2022年度より整形外科疾患のリハビリテーションを開始。

主な対象患者

- 肺気腫などの慢性閉塞性肺疾患（COPD）、間質性肺炎、結核後遺症などの安定期慢性呼吸不全患者、および急性増悪後の患者
- 気管支喘息などのアレルギー性呼吸器疾患患者
- 肺癌などの胸部手術の術前・術後患者
- 結核、肺炎などの感染性疾患患者、ARDS 重症肺炎などの急性呼吸器不全の患者
- 人工股関節置換術後、人工膝関節置換術後の患者
- 慢性心不全、心臓カテーテル治療後の患者

2025年度主な診療実績

呼吸器リハビリテーション	14,523件
廃用症候群リハビリテーション	2,807件
運動器リハビリテーション	5,465件
脳血管疾患等リハビリテーション件	557件
がん患者リハビリテーション	1,527件
心大血管疾患リハビリテーション	1,115件
摂食機能療法	2,537件

一般的な呼吸リハビリテーションプログラム

- 呼吸訓練（口すぼめ呼吸横隔膜呼吸など）
- 呼吸筋トレーニング
- 胸郭可動域訓練・ストレッチング、呼吸筋ストレッチ
- 運動療法（筋力、運動耐容能）
- 患者教育・動作要領の指導
- ADLトレーニング
- 排痰法の習得



医師紹介

医師名		職位	資格
西井 孝	NISHII TAKASHI	リハビリテーション科 主任部長 兼 整形外科主任部長	日本整形外科学会専門医・認定運動器リハビリテーション医／日本人工関節学会認定医／大阪府難病指定医／緩和ケア研修修了
谷内 孝次	YACHI KOJI	リハビリテーション科 副部長 兼 整形外科副部長	日本整形外科学会専門医／大阪府難病指定医

※セラピスト 理学療法士7名／作業療法士2名／言語聴覚士1名

病理診断科

各診療科と緊密に連携し病理・細胞診断を迅速かつ正確に行っています



診療科 HP

診療の特色

- 病理診断は治療方針の決定に重要な役割を担う確定診断となります。精度の高い診断を実践しています。
- 治療に直結する検査を院内実施
腎臓や皮膚の蛍光染色、肺癌のPD-L1免疫染色、乳癌のコンパニオン検査など。早急な治療導入が可能です。
- 他の医療機関から持参された病理標本を当科で再診断
持参された病理標本をバーチャルスライドシステム（電子カルテ上で病理標本を閲覧可能な機能）で担当科と情報を共有し、適切な治療につなげています。診断の精度が高くなり、再検査による患者負担が軽減します。
- 臨床各科や画像診断科とバーチャルスライドシステムを用いた合同カンファレンスを開催
びまん性肺疾患集学的合議（MDD）、肺腫瘍、乳腺、婦人科、皮膚科などの診療の質向上に寄与しています。
- 担当科を中心に病院全体で
臨床カンファレンス（CPC）を開催
治療法の妥当性検証や死因の徹底的な究明を行うため、遺族の承諾を得て病理解剖を行いCPCで討議します。

主要診療

細胞診断 / 生検組織診断 / 手術で摘出された臓器・組織の診断 / 手術中の迅速診断 / 剖検診断

2025年度主な診療実績

組織診断総計 4,024件（内迅速診断262件）

細胞診断総計 8,855件（内迅速診断351件）

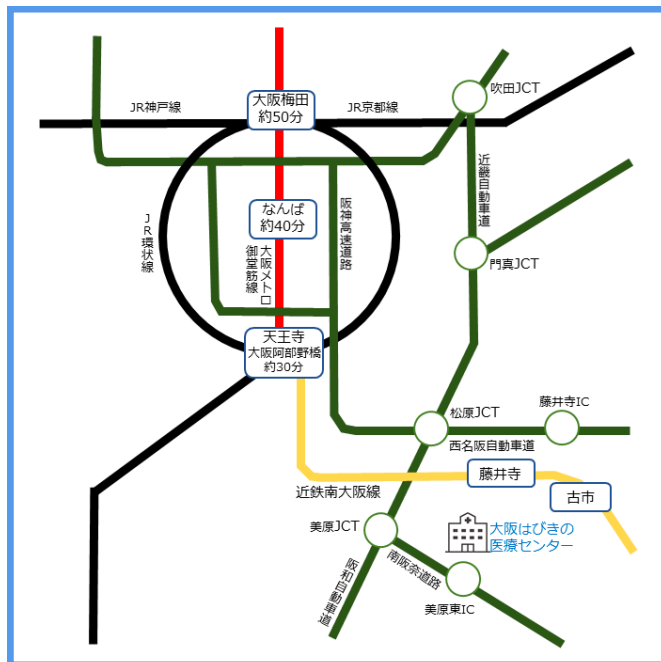


病理医と細胞検査士との科内カンファレンス
（毎日実施）

医師紹介

医師名		職位	資格
上田 佳世	UEDA KAYO	主任部長	日本病理学会専門医・研修指導医／分子病理専門医／日本臨床細胞学会細胞診専門医／日本臨床検査医学会臨床検査管理医／臨床研修指導医／緩和ケア研修修了

ACCESS



電車・バスでお越しの場合

近鉄南大阪線「藤井寺」又は「古市」駅下車。
近鉄バス「羽曳ヶ丘方面行」又は「四天王寺大学行」に乗車約10分、
「府立医療センター」下車すぐ



近隣から車でお越しの場合

- 大阪外環状線「軽里北」交差点又は「西涌」交差点から西へ5分
- 大阪中央環状線→美原ロータリーから府道堺羽曳野線→「野中寺」交差点から南へ5分



大阪市内から車でお越しの場合（約30～40分）

- 阪神高速松原線（or 近畿自動車道）松原 JCT → 阪和自動車道美原 JCT → 南阪奈道路美原東 IC 出 → 道の駅「しらとりの郷・羽曳野」交差点左折
- 阪神高速松原線（or 近畿自動車道）→ 西名阪自動車道藤井寺 IC 出 → 大阪外環状線「軽里北」交差点右折



地方独立行政法人大阪府立病院機構

大阪はびきの医療センター

Osaka Habikino Medical Center

〒583-8588 大阪府羽曳野市はびきの3-7-1

☎072-957-2121 (代表)



072-958-3291 (代表)



072-957-8051 (地域連携室)

センター公式
HP・SNS

